

# にちぎん

2019 NO.57

春



インタビュー 扉を開く

**野村萬齋** 狂言師

「この辺りの者でござる」と名乗る狂言の精神

地域の底力

**奈良県桜井市**

新たな歴史を紡ぎはじめた古の「まほろば」奈良県桜井市

対談 守・破・創

**幸田真音** 作家

**雨宮正佳** 日本銀行副総裁

「人の営み」を映し出す経済から小説は生まれる

エッセイ “おかね”を語る

**村岡恵理** 作家 がんばれ、花子さん!

東洋英和女学院大学に「花子プロジェクト」という奨学金制度ができた。返済義務のない給付型奨学金で、何らかの理由で両親と別れ、児童養護施設で育った子どもに大学教育の道を開く独自の取り組みである。

「花子」というのは『赤毛のアン』や『ランダースの犬』などの英米文学の翻訳者である祖母の村岡花子の名にちなむ。教育の機会が均等ではなかった明治期、しがたない茶商人の娘に生まれた花子は一〇歳の時に本校に奨学生として編入した。ここで受けた教育が花子に後の時代を生き抜く翼を与えたのだが、それから一〇〇余年、由縁あるこの大学で新たにこのプロジェクトが始まった背景には、少子高齢化の今の日本で、七人に一人の子どもが貧困状態に置かれているという由々しき実態がある。

基礎的な学力や積極性、心身の健康など、諸要件を充たし、施設長や高校の推薦と面接試験を経て奨学生となった学生には、入学金と四年間の学費が免除、その上必要ならば月五万円の住宅費補助が支給される。本人自らが話さない限り、プライバシーは厳守される。

当然なのだが、現代の花子さんたちは、見た目には普通の女子大生と少しも変わらなない。スマホを使いこなし、今どきの身なりで流行語を話す。彼女らが部活の上下関係に悩



絵・江口修平

## がんばれ、花子さん!

村岡恵理

んでいたりと、必修の単位を落したり、のびのびと学生生活を送っている様子を聞くことが出来る。

しかし、今の貧困の問題点は、それが目に見えないところにある。彼女たちは時折、教授の研究室に来てティッシュペーパー一箱分、号泣するそうだ。

一般的な家庭の子どもが難なく得る人とのつながりや経験を、彼女たちは貧しさゆえに経験できずに育った。たとえば家族旅行や塾や習い事。これらは無くても生きていけるが、友人の中で自分だけができないというのは、どんなにか寂しいことだろう。

そういえば祖母の随筆にも、女学校時代、友人にクリスマスプレゼントを買えない自分が見じめで寄宿舎でひとり泣いたというのがあった。幼少期に孤児院で育った赤毛のアンも、友人たちが着ている美しいふくらんだ袖のドレスに憧れた。現代の花子さんなら成人式の振り袖だろうか。今後はリクルートスーツも必要だろう。社会人になる前に、ムダのようで決してムダではない、さらさら輝く時間を友人たちとたくさん共有してほしいと思う。たとえ辛いことがあっても、青春時代は人生で一番美しい季節だから。

そのために、何かできることはないだろうか。

むらおか・えり●作家。1967年生まれ。成城大学文学部卒。著書『アンゆりかご 村岡花子の生涯』（新潮文庫）が、2014年前期NHK連続テレビ小説「花子とアン」の原案となる。このほか、『アンを抱きしめて』（絵・わたせせいぞう/NHK出版）など。編著に『村岡花子と赤毛のアンの世界』（河出書房新社）などがある。2019年夏、作詞家岩谷時子の評伝小説を刊行予定。





2 エッセイ／“おかね”を語る  
がんばれ、花子さん! 作家 村岡恵理

4 インタビュー／扉を開く  
野村萬斎 狂言師  
「この辺りの者でござる」と名乗る狂言の精神



9 地域の底力——奈良県桜井市  
新たな歴史を紡ぎはじめた古の「まほろば」  
奈良県桜井市



16 対談／守・破・創  
幸田真音 作家  
雨宮正佳 日本銀行副総裁  
「人の営み」を映し出す経済から小説は生まれる

20 貨幣の世界——最終回 [形 その7]  
現代の貨幣—国もいろいろ形もいろいろ— (5)

24 FOCUS → BOJ 27 日本銀行総務人事局 日本銀行におけるダイバーシティ推進の取り組み  
すべての職員が能力を最大限に発揮できる組織を目指して

日本銀行のレポートから

28 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2019年1月—

30 「地域経済報告」(さくらレポート) —2019年1月—

別冊「人手不足のもとでの賃金動向と  
新たな給与体系の構築に向けた取り組み」—2018年12月—

36 トピックス  
長崎支店は開設70周年を迎えました ほか



39 AIR MAIL from Frankfurt  
変化と伝統のフランクフルト

## 表紙のことば

日本銀行松山支店は、日本銀行の一七番目、四国で最初の支店として、昭和七年(一九三二)に開設されました。

初代店舗は、辰野金吾博士の高弟・長野宇平治氏の設計によるルネサンス様式風の建物でした。戦時中は、防空対策として、白亜の建物全体に伊予紵の廃液を流しかけ藍色の迷彩を施しました。幸い空襲による延焼を免れ、地域の金融経済活動を支えるため業務を続けることができました。

表紙の現店舗は、初代店舗の老朽化などに伴い、昭和五十九年(一九八四)二月に建て替えられた二代目です。市民から長く親しまれてきた初代店舗は保存を望む声も強く、解体前の一般公開時には多数の見学者が訪れ、名残を惜しましました。

現店舗の営業場には、初代店舗の格子形の天井を模した照明器具を設置したほか、ロビー上部に初代店舗の持ち送り金物(壁や柱から突出させて梁などを支える部材)を再利用するなど、初代店舗の記憶が継承されています。松山支店はこれからも松山の街とともに歩みを進めていきます。



表紙・画 北村公司

狂言師

# 野村萬齋

Mansai Nomura

室町時代から続く伝統芸能、狂言。その核心は「この辺りの者でござる」という名乗りの言葉に凝縮されると、狂言師・野村萬齋氏は言う。決して敷居の高いものでも、過去のものでもない狂言の魅力を、ときに能や歌舞伎と比べながら語っていただいた。狂言師が幼いころから身につけていく「型」に関するお話は、教育の本質にも通じている。



# 「この辺りの者でバリエーションがある」

## 名乗る狂言の精神

### ヒーローではなく市井しせいの人々が活躍する

—— 狂言は室町時代から六〇〇年以上の伝統がありますが、どのような古典芸能でしょうか。

萬齋 簡単に言えば日本古来の喜劇です。狂言は「この辺りの者でござる」というセリフで登場人物が自己紹介するところから始まります。能では文学の中の有名人（光源氏や在原業平）などが登場しますが、狂言には特定のヒーローやヒロインは出てきません。いつの時代のどこにでもいる市井の人々が「いま、このとき、ここにいる者」として登場します。見栄を張って失敗する偉い大名とか、主人より頭が冴えている召使い（太郎冠者）、男よりもパワフルな「わわしい女」など、どこにでもいそ

うで親しみある人物が狂言では活躍する。身分や地位に左右されず、人間をフラットに見ているという精神をもった喜劇だと思います。

「この辺り」には、舞台辺り、その場で見ているお客様も含まれるわけですから、そういう意味で言うと、狂言はどの時代のどの国でも通じる普遍性もあります。昨年八月に北京で、九月にはパリでも公演しましたが、そのたびに「この辺りの者でござる」というのはじまりで私は登場しました。「東京から来たじゃないか」と突っ込まれそうですが、名も名乗らず、昔から北京やパリに住んでいるように始める。狂言は、古典芸能と言っても、

まさに「今」を演じているんです。

—— 狂言には福神や鬼といった人間以外の存在、あるいは猿や狐などの動物も出てきます。狐が人間に化ける曲もありますが、そういうスピリチュアルな内容は海外で通じるでしょうか。

萬齋 『キャッツ』や『ライオンキング』など擬人化した動物による劇は西洋にもありますから、人間以外の役が出てくる狂言の曲も通じるとは思いますが。ただ、動物をはじめ、雷や茸きのこといったものまで擬人化し、全てのものに人格や存在感を見いだす狂言は、やはり日本的、八百万やおよびの神的な発想があるように感じますね。

時代を追って見てみると、狂言が成立した中世の頃は、人間が畏怖おそする対象は数多くあったのではないのでしょうか。シエイ

クスピアも中世と近世の境ですから、亡霊とか魔女とか、超自然的な存在が出てきますし、いろいろな宗教も中世に最も信仰を集めていました。ところが現代では、科学の発達で「目に見えない力」がどんどん解明され、人間が超自然的な存在になりに変わったかのように思ってしまうところがあるように思っています。そういう中で、狂言は、超自然的な存在を畏怖する精神が残っている、ということは言えると思います。

—— 狂言と能は合わせて能楽のうがくと呼ばれますが、狂言と能はどのような関係にあるのでしょうか。萬齋 能が料理とすれば狂言はワインみたいなものとも言ったらよいでしょうか。能は二時間近い歌舞劇——重厚なディーツシユの趣があります。その能と能の間に演じる狂言は、二、三分で重いものをパツと吹っ飛ばすような軽妙な笑いの世界。お口直しをしたいお客様のための芸とも言えるかもしれません。でも最近ではこのお口直しのワインをメインとして楽しむよう

に、狂言だけの会も多く開かれています。実際、私も全国各地で狂言の会を開いています。

—— 狂言は歌舞伎のような長期公演ではなく、一日限りの上演がほとんどです。

萬齋 狂言は一期一会で演じて見せます。さかのぼってみますと、昔、誰に対して演じていたかといえ、私が属する野村家の場合、江戸期に加賀・前田藩のお抱えでしたから、基本的には殿様に見せていたのかもしれませんが。聴衆の娯楽も兼ねて勸進能（社寺建立等の目的で寄付を募るために催された興行能）を演じるといったことも当然あったとは思いますが、武士に支えられてきた芸能が狂言なんです。一方で歌舞伎は元禄の商業が花開いたときの「もうかる商業演劇」というところが、長期公演の根本にあるのかもしれない。

—— 確かに、一度稽古した演目で長期公演すれば効率的に稼げます。歌舞伎には商人の考え方が色濃く反映されていると言え、るのかもしれない。

萬齋 歌舞伎は大掛かりにセットもしつらえ、そうしたセットも含めて非日常感を演出し、お客様を楽しませます。翻って狂言の能舞台は、大きなセットも、照明や音響の効果もない。狂言師と衣装さえあればできる裸舞台、トランク一つに衣装を詰めればどこに行っても公演がで

## 「型」を使って演じ、想像力に働きかける

—— 狂言は能や歌舞伎のように役者に分業がなく、女役から太郎冠者・大名、僧侶、動物、昆虫まで全て演じなければならぬ。演じ分けるための型みないなものがあるのですか。

萬齋 あります。狂言師は師匠から「型」を植え付けられます。それを使うことで日常から離れられる。バレエや武道でも構えという「型」を使ったとたん、非日常になりますよね。神経をどこかに集めるとか、ある種、不自然な身体になることが人間でなくなるといふ瞬間もある。

でも狂言の「型」とは何かと

きるトランクシアターです。狂言は狂言師から醸し出される所作などを非日常感としてお客様に味わっていたり、狂言では大がかりな舞台がなくてもできますから、私は食い詰めたときはストリートパフォーマンスでやれると思っています。

問われると説明に困るんです。狂言における立ち方は「構エ」と呼ばれる「型」がありますが、その他に歩き方や声の出し方ももちろん、物の考え方にも「型」みたいなものがある。能・狂言には「序破急」という言葉もあって、内在するエネルギーを徐々に発散しながら、手の動きや摺り足に変化や強弱をつけます。これも「型」をするための一つ概念と言えます。

—— 先人たちから伝えられてきた「型」が、時代とともに変わることもあるのでしょうか。

萬齋 「構エ」や摺り足の「運び」といった基本的な「型」は

あまり変わらないかもしれませんが。しかし、演出的なスピード感、緩急・強弱の付け方は昔より大きくなったと言われます。

「型」と言っても、誰も彼もそれにはめ込んで金太郎飴のように同じフィギュアを作る、ということはありません。例えば「構エ」も師匠が教えることになるのですが、弟子には前重心の人かもしれない、後ろ重心の人かもしれない、野球で言えば、松井秀喜選手は後ろ重心だから球を懐まで呼び込んで振り抜けますが、前重心のイチロー選手にはそれはむずかしい。他方、イチロー選手は球を当ててからすぐ走り出せますが、後ろ重心の人はスイングした後すぐには走れません。重心だけではなく、足の寸法なども一人一人違います。だから、狂言で弟子が師匠と同じ角度で関節を曲げたりしても安定した「構エ」を身につけられるとは限らない。では、師匠の何をまねるのか。全体的な佇まいを弟子が解釈し、まねをして構えるのです。その意味で「型」というのは個人に寄せ



のむら・まんさい●1966年東京生まれ。東京藝術大学音楽学部卒業。狂言師。重要無形文化財総合指定者。祖父・故六世野村万蔵および父・二世野村万作に師事し、3歳の時に『靉猿』で初舞台を踏む。94年、二世野村萬齋を襲名。国内外で多数の狂言・能公演に参加する一方、現代演劇や映画・テレビドラマの主演、古典の技法を駆使した作品の演出、NHK教育テレビへの出演など幅広く活躍。94年に文化庁芸術家在外研修制度により英国留学。文化庁芸術祭演劇部門新人賞、紀伊國屋演劇賞など受賞多数。安倍晴明役で主演した映画『陰陽師』でも各賞受賞。87年から「狂言ござる乃座」を主宰し、2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督。01年～02年には中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員も務めた。2020年東京五輪・パラリンピックの開閉会式の演出を総合統括するチーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターを務める。主な著書に『狂言サイボーグ』（文春文庫）、『野村萬齋 What is 狂言？ 改訂版』（繪書店）などがある。

るものでもあるわけです。

—— 狂言は裸舞台上で演者自身の「型」の連続で表現することになりますね。セリフと謡があるものの、言葉の直接的な説明はなく、観る人は想像力を働かせなければなりません。

萬齋 言葉で説明すると言葉に

## 狂言の精神を世界の舞台へ

—— 野村さんは東京五輪・パラリンピックの開閉会式の演出の総合統括をされることになりました。狂言の精神をどう演出に生かそうと思っただけじゃない

とらわれる、ということもあります。お客様は想像力に任せます。お客様の想像力に任せるといことは、それだけお客様に楽しむ「余白」があるという言い方もできると思います。狂言とは、その余白を楽しんでいただく芸と言えるのかもしれない。

ますか。

萬齋 開閉会式の総合プランニングチームには八人のアーティストがメンバーとして集められ、その中で私がリーダー役を

仰せつかりました。それは狂言の「この辺りの者でござる」の精神が、世界に普遍的なものとして受け入れられたという面があります。

開閉会式の演出においては、「何を表現しようとしているのか」という解説やアナウンスをなるべく入れないようにしようと考えているんです。観客のイメージに訴えて感じてもらうほうがいいかなと。言葉が多いと、先ほど申し上げたように、その言葉にとらわれてしまいますから。確かに、同じ文化圏にいる人でなければ、違う文脈にとら

## 「型」を身につけなければ表現も個性も生まれない

—— 狂言にとどまらず、演劇、テレビドラマ、映画とあらゆるジャンルで活躍されていますが、映画『シン・ゴジラ』でゴジラ役をモーシヨンキャプチャー（人間などの動きを測定してコンピューターに取り込む技法）で演じられたと知って驚

れる可能性はありますが、それを気にしすぎるよりも、言葉を少なくして、先ほど申し上げた余白に訴えるほうが、見る方々の世界観を広げられるような気がします。

五輪は平和とスポーツの祭典。それを狂言の精神でフラットに全体を俯瞰する。どんなに偉くても強くても、一人一人は小さな存在です。それを認めつつ、今回、世界中のアスリートが東京に集い、正々堂々と公平に競い合う。そういう場にふさわしい演出に貢献できたらと思っています。

萬齋 『のぼうの城』という私が主演した映画の共同監督である樋口真嗣監督が、『シン・ゴジラ』も撮ることになったんですね。「シン」とは「神」で、ゴジラを人間を超える存在であるように描きたい。私の身体性、非日常性をモーシヨンキャプチャーでまさしく写したとい



うことだったのでしよう。狂言師である私は非日常に入れる「構エ」などの「型」を持っているし、「運び」で水平移動すれば人間とは違うエネルギーを感じさせる歩き方になったりするからです。

ゴジラが出てくる映画は日本でもアメリカでも作られています。ゴジラの捉え方は全然違います。日本人の感性ではゴジラをどこかで人間のように見えます。ハリウッド版はゴジラを爬虫類の延長みたいに描いて、人間味が感じられません。私がゴジラ役で思い描いたのは

狂言の様式と人間性——「型」から非日常に入って日常の劇を演じるという二律背反を一遍に見せることです。ゴジラは畏怖される存在として現れたものの、攻撃されるうちに怒り、恨み、熱線を発する。そのとき、体がうねるわけです。その場面は能『道成寺』で般若の面をつけた女性が祈られて苦しむ「型」を応用しました。ゴジラも擬人化したわけです。

——NHK教育テレビの『にほんごであそぼ』など子ども向けの教育番組にも出演されています。

萬齋 いろいろな文化を残していくには、幼いころからそれに触れてもらうことが大事です。教育番組への出演によって、幼いころから狂言に慣れ親しんでもらうのは、狂言界にとっても先行投資と言えるのかもしれない。狂言師の教育方法自体、三歳ころから、師匠と一対一で向かい合い、意味もわからないまま「型」のまねを何度も繰り返します。それが大人になると、狂言の世界の教養が身について

いることのありがたさ、幸せも感じるようになる。ですから、私の出演している番組を観てくれるお子さん——五歳児くらいではまだむずかしい日本語はわからないかもしれませんが、まずは言葉に、そして狂言に親しんでもらえればと思っています。狂言の言葉には美しくて面白い日本語が多いですし、テレビに合わせて口ずさんだその言葉の意味を何十年か後に知って「そうだったのか」と、子どものころの思い出も含めて財産にしてもらえたらうれしいですね。

——狂言が日本語教育にとって大事な要素を含んでいるように思います。

萬齋 以前、文部科学省の中央教育審議会で申し上げたことがあるのですが、子どもはもともと表現なんてできないものだと。知識で教えられるものでもないし、表現するための機能というか、今風に言えばアプリをまだ身につけていない子どもにも豊かな表現を求めても仕方がない。でも表現の機能を自分の中に入れると、おのずと表現でき

るようになるというのが古典芸能をやってきた私の考えなんです。例えば私は、狂言の笑いの「型」を使うと、おかしくないときでも笑えます。前傾姿勢で「ウーツ」とためて、反り返って「わっはっはっは」となる。「型」で笑っているうちに気持ちがよくなって、おかしくなってくるんです。

一時期、子どもの教育に個性の尊重が大切だとよく言われました。ただ、個性を發揮するための表現手段を多少なりとも教えないと個性をどう發揮していか分からない。私たち狂言師にとって幼いころの稽古は、自分の意思とは関係なく、ある程度デジタルな法則みたいに「型」を自分にプログラミングします。しかし、それを場に合わせ、繰り返し方を考えたりするのはアナログな人間、自分自身です。そこに、まさしく個性が現れるのです。

——本日はお忙しい中、さまざまなお話をありがとうございました。



地域の底力

奈良県桜井市

# 新たな歴史を 紡ぎはじめた 古の「まほろば」 奈良県桜井市

飛鳥時代以前、約三〇〇年にわたり、  
古代ヤマト王権の宮が置かれ、  
仏教伝来の地ともいわれる桜井市は、  
歴史的資産を大切に受け継ぎながら、  
今、未来に向けて動き出す。

取材・文 山内史子  
写真 野瀬勝一

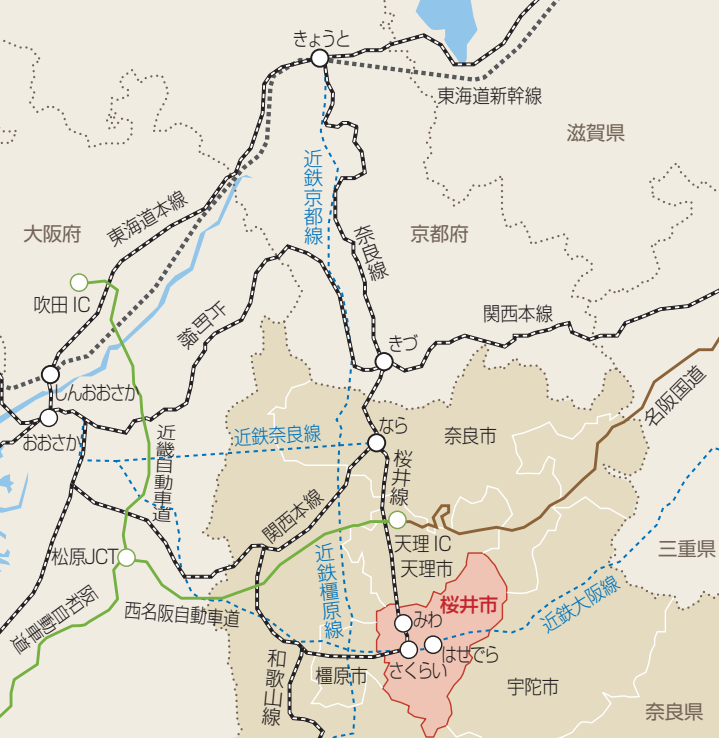
奈良時代の創建とされる、国宝の長谷寺。写真の本堂は、徳川家光の寄進により1650年に完成した。長谷寺のほかにも、長い歴史を有する寺社、飛鳥時代以前のヤマト王権にまつわる古代の史跡など、桜井市には数多くの資産が点在している。

## 古代に礎が築かれた 歴史あるまちの転機

奈良県桜井市は県のほぼ中央、奈良盆地の東南に位置する。人口

は、約五万七〇〇〇人。JR桜井線、近鉄大阪線の桜井駅がある上、奈良市までは約二〇キロ、大阪市へは約四〇キロと通勤圏に位置するため、ベッドタウンとして発展してきた。歴史好きの方なら、邪馬台国の有力候補ともいわれる纏向遺跡があると聞けば、心躍ることだろう。

飛鳥時代より前の三世紀前半か



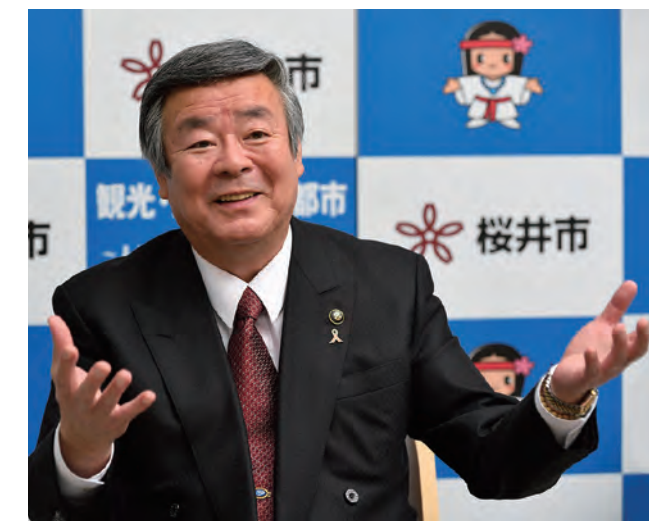
ら六世紀後半、第十代崇神天皇から第三十二代の崇峻天皇までの宮が置かれていたといわれる、と桜井市長の松井正剛氏はまちの礎である古代の歴史を語る。

創祀が「古事記」「日本書紀」に記され、日本最古の神社といわれる大神神社、奈良時代に創建された国宝の長谷寺など、古から人々の心のよりどころだった社仏閣も数多い。六世紀、欽明天皇の時代に百済の使節が大和川からこの地に上陸し、仏教を伝えたという「仏教伝来の地」ほか、万葉集、相撲など数々の「はじまりの地」も残る。

「桜井市には、歴史を物語る素晴らしい資産がありますが、そうした状況に安住して生かせていなかった。また、昭和三十〜五十年



纏向遺跡の一角にある箸墓古墳。宮内庁により第7代孝靈天皇皇女の倭迹迹日百襲姫命の墓に指定されているが、邪馬台国を治めた卑弥呼の墓ではないかとの説もある。



「あたためていた事業計画が、この3年ほどの間で一気に動き始めました」と話す、桜井市長の松井正剛氏。10年先、20年先を見据えつつ、昭和30〜50年代のまちの勢いを取り戻したいと意気込む。

代にかけては、木材やそうめんなど好調な地場産業に頼っていたこともありました。その後、それら地場産業が低迷すると、まち自体も活気を失っていった。過去の反省の下に、現在は歴史と文化を活用した観光・産業創造都市を目指そうとしています」

松井氏の現職就任は、二〇一一年。まずは市の財政の健全化を進めるなか、県とのまちづくり連携協定が結ばれ、観光関連のNPO法人や市民団体なども設立された。纏向遺跡の復元やガイダンス施設「桜井市纏向学術センター」の建設を含め、多様な事業計画が進行中だという。

なかでも関心を惹かれたのは、桜井市とその北に位置する天理市、西の磯城郡、東の宇陀市とが手を組んだ広域の観光対策だ。古代ヤマト王権発祥の地として「ヤ

マト」と名付けられたエリアへの集客を目的として、外国人観光客向けのパンフレットも作成した。

「桜井市の観光客数は年間約七四〇万人ですが、日本人の日帰り観光がほとんど。広域観光エリア『ヤマト』を国内外に発信することで、通過型から滞在型への転換を図りつつ、外国人観光客の取り込みにも注力したいと考えています」

もとをたどり、なぜ、古代の人々がこの地を選んだのか、松井氏に投げかけてみた。

「災害が少ないんです。それが、昔から都が置かれた一番の理由ではないかと思えます。纏向に宮を置いたといわれる景行天皇の皇



上／百済の使節が降り立ったとされる大和川沿いに建てられた「仏教伝来之地碑」。下／大和国の当麻蹶速と出雲国の野見宿禰が日本で初めて相撲をとったといわれる場所には、相撲発祥の地として「相撲神社」が建立された。



続いてお話を伺ったのは、桜井木材協同組合理事長の岩本亨氏だ。「木のまち桜井」といわれる

## 吉野の山が支えてきた木のまち桜井

「吉野では吉野杉、吉野ヒノキで無節材（表面に節がない木材）をつくってきました。昔の家は、

柱が表に出ていたのでそうした無節材が好まれたことに加え、丁寧な仕事のおかげで、吉野産という名前前で売れた時代が長く続きました。しかし、近年、壁の中に柱が隠れ、無節材を必要としない家が

増えたことが、吉野の木材にとって逆風になっています」  
 そうした状況に危機感を抱いた組合では最近、新たな展開に向けて舵をきった。そのひとつが、設立七〇周年を機に二〇一八年に建設された新事務所だ。

「かつての桜井市は、吉野、東吉野の山から切り出した丸太の集散地としてにぎわっていました」  
 岩本氏によれば、昭和四十年代には約二六〇社あった組合員の事業者数は、現在九六社に減少したという。その理由は、輸入材の影響。さらには、木材需要の変化も関係しているそうだ。

「かつての桜井市は、吉野、東吉野の山から切り出した丸太の集散地としてにぎわっていました」  
 岩本氏によれば、昭和四十年代には約二六〇社あった組合員の事業者数は、現在九六社に減少したという。その理由は、輸入材の影響。さらには、木材需要の変化も関係しているそうだ。

り出したままの木材）をふんだんに使用。会議室や別棟のイベントホール、レンタルスペースをはじめ、市民が利用して木材の魅力を感じられる造りになっている。

「木の良さは言葉では伝わりにくい。体感してもらうために吉野の木材で建てたんです。木で建てるのと費用が高いと思われるかもしれませんが、実は鉄骨で建てるより安い場合もあります。しかも木造の家は湿気を木が吸収するので、結露を防げる。除湿器も乾燥機も要らないんです」

組合が一丸となり、事業を請け負う取り組みも進行中だ。

「昔とは異なり各社の扱う建材

が分業化された今、一社だけですべての資材をまかなえない。ですから企業や公共施設の建設に対しては、組合がまとめる形で対応しています。組合員の材料を使っていただくことで、業界全体が伸びたらいい。公共施設の木質化など、組合として桜井市の特色が出る提案をしていきたいと思っています」



桜井木材協同組合理事長の岩本亨氏。地元へ貢献をとの思いから、新事務所やホール、駐車場などを災害時の緊急避難場所とする協定を、2018年11月に桜井市と結んだという。

奈良時代の遣唐使安倍仲麻呂、平安時代の陰陽師安倍晴明らを輩出した、安部一族の氏寺として645年に建立された「安倍文殊院」。金閣浮御堂（仲麻呂堂）には、仲麻呂、晴明の像が祀られている。



2018年竣工の桜井木材協同組合事務所。一般にも貸し出される会議室をはじめ、木材の魅力を広める役割を担う。



## 時代の変化と向き合う 老舗の勇気ある決断

例えばこれまで、木造の桜井市立図書館の建築や銀行の内装改修などが手がけられた。市との連携により、小学校では吉野杉の集成材を使った机や椅子の導入も進められている。

地元のコンビニエンスストアのリクエストにより、壁を吉野ヒノキの無垢材で覆う加工がなされたとの話も、意外ながら興味深い。また興福寺中金堂の再建に、この地の宮大工が携わっており、確かな技術も息づく。質の高い木材と職人の技術、そして業界の強い意気込みを伺い、「木のまち桜井」の復活に向けた未来への可能性が地元にも広まりつつあるのを感じた。

木材と並び、桜井市を代表する

地場産業、そうめん業界も時代の変化という壁に直面した。創業一七一七年の老舗「三輪山本」もそのひとつ。「三輪そうめん山本」の名でご存じの方も多いかと思うが、創業三〇〇年を迎えた二〇一七年、クリエイティブディレクター佐藤可士和氏の力も借りてブランドディングをたてなおし、社名やロゴをあらためた。

代表取締役の山本太治氏は、その背景をこう語る。

「お中元やお歳暮のボリュームが徐々に小さくなってきていること、贈答用のそうめんを主力としている当社は大きく影響を受けています。バブル期のピーク時と比べ、ギフトの販売量は半減。この厳しい状況に退路を断って再スタートに臨む覚悟を、社名やロゴの変更に込めました」

かつて、そうめんは簡単に食事を済ませたいときに頼れる存在だった。しかし、今では湯がく一時間ですら面倒に思う人も増えた

そうだ。そこで、電子レンジで調理できる商品をはじめとした新商品の開発に力を注ぐことに。直径〇・三ミリと一般的なそうめんの三分の一の超極細麺ながらコシのある「白髪」や、三分の二の「白龍」など、最新技術を活かした品々も、洗練されたパッケージとともに注目が集まっているという。

「おかげさまで、ブランドや商品デザイン刷新、新商品の開発等が奏功し、特に、インターネットを介した売り上げは伸びています」

そう語る山本氏によれば、三輪はそもそもそうめんの発祥の地であるという。

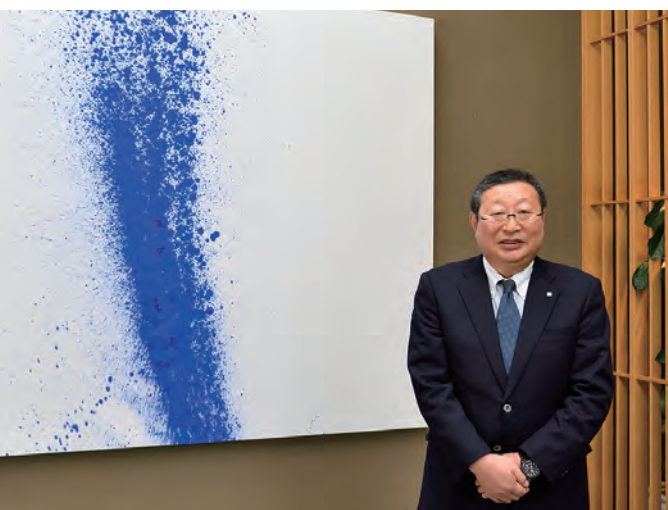
「二〇〇年から一三〇〇年前、仏教伝来とともに、小麦を栽培し粉にして保存食にする文化が日本に入ってきました。そのうちのひとつが、そうめんです。三輪は伊勢街道の途中にあり、江戸の中期からはお伊勢参りの人々がそうめん文化を各地に持ち帰り、全国に広まったといわれています」

一方で、桜井の人の気

質を語る山本氏の話も興味深いものがあった。

「桜井市をはじめ奈良県は、昔から、歴史的な資産で何とか食べていった。観光でも、修学旅行者が来てくれていればそれでいいと。地域に人を呼び込むための新しい取り組みをしてこなかった。ようやく最近、若い方々を含めいろいろなことを刷新しようとする人たちが出てきました。地域衰退への危機意識の表れかもしれませんが、こうした動きに大いに期待しています」

のんびりしている、焦りがない。今回、何度か耳にした話だ。まほ



三輪山本代表取締役の山本太治氏。背景を飾るのは、創業300年の折にコーポレートアイデンティティを手がけたクリエイティブディレクター佐藤可士和氏の作品。



三輪山本本社内にある直営ショップ。そうめんに加え、吉野くずを使った自社開発のスイーツなども扱っている。一角にはそうめんを干す過程の展示も。併設の食事処では、にゅうめんほか特製メニューを味わえる。

## 日本酒の聖地・三輪の名を世の中に広めるために

ろば……恵まれた環境が、現代の時流においては穏やかすぎる気質を育んだのかもしれない。

三輪にはもうひとつ、古い歴史を誇るものがある。日本書紀にも記される日本酒だ。大神神社は日本酒の聖地とされており、毎年

十一月には日本全国の蔵元が集まって醸造祈願祭が開催される。この聖地に、一六六〇年創業の今西酒造がある。代表取締役の今西将之氏は、二〇一一年、二八歳のとき父親が急逝し、引き継ぎがないまま酒造りに取り組むことになった。

当時は酒蔵のほかに飲食や宿泊業を営んでいたものの、経営は順調ではなかった。蔵の生産量はごくわずかで、従業員は三人。「三諸杉」の名は地元でもほとんど知られていなかった。こうした状況に今西氏は一念発起。多角経営をやめて酒造業一本にし、抜本的に酒造を改革した。結果、酒質を向上させ、今では業界で数々の賞を受けるなど注目を浴びる存在に。全国各地から取引依頼があり、従業員は三〇人を数えるまでになった。

「三輪は酒造りの始まりの地といわれており、三つの酒蔵があった。でも、残ったのはうちだけ。その責任の重さを親父も感じていたはず。多角経営に乗り出したのも赤字の酒造業を守るために、他の業に活路を見いだしたいという

ことだったようです」

当地が酒の聖地とされるのは、その歴史だけではなく、蔵の井戸に湧く三輪山の伏流水にもよる。酒の原料となる米もまた同じ水脈で育つ。

「三輪を飲む、が『みむろ杉』『三諸杉』のコンセプト。酒の神が宿る地、そしてその地で育まれた原材料で酒造りができるのは世界でもうちだけ。酒造りをするのになんぞ恵まれた所はない。でも、そんな三輪の酒が世間に知られていない状況だった。こんな悔しいことはない、三輪を表現する酒を造り、その酒を通して、三輪が認知され

るよう、人生をかけてがんばっていきたくと思っています」

今西氏は「三輪が酒の聖地」と認識してもらえようと、大神神社参道とJ R三輪駅前に直営店を出店。さらには、大神神社ほか三輪の日本酒にまつわる場所をまわり、最後は蔵で利き酒ができる「聖地巡盃ツアー」をスタートさせた。

ガイドは、地元の主婦を自社で育成。周辺にある飲食店に積極的に立ち寄ることで、地元経済が潤う仕組みをつくっている。このツアーには、二年間で約五〇〇〇名が参加しているそうだ。今西氏の熱い思いを聞きながら、ほどよい



「みむろ杉」「三諸杉」を醸す、今西酒造代表取締役の今西将之氏。「三諸杉」は県内写真の「みむろ杉」は、主に県外で流通される。「三諸」とは、三輪山を含めた神が宿る場所という意味。



三輪山を御神体とする大神神社。主祭神は大物主大神。箸墓古墳に眠るといわれる、倭迹迹日百襲姫命と夫婦だったとの伝説が残る。



## 平安時代の 貴族も歩いたまちに 再びにぎわいを

「みむろ杉」「三諸杉」を味わい、今後も多くの人が三輪を訪れるのではないかと予感する。

大神神社と並ぶ桜井市の観光の要が、初瀬地区にある奈良時代創建ともいわれる長谷寺だ。藤原道長をはじめ貴族がごぞつて詣でるようになった平安時代以降、参道を軸に広がる初瀬のまちは長きにわたりにぎわってきた。

「今では想像できませんが、僕

らが小さい頃は、春の観光シーズンになると露店が初瀬のまちに並び、人でいっぱい動けない状態だったんです」

NPO法人泊瀬門前町再興フォーラム理事長の寺井修司氏は、昭和の頃からの変わりようを語る。

「長谷寺さんは西国三十三所の札所でもあるし、年間何十万人と観光客が来られる。その状況に安閑としていたんですね。当初、われわれの集まりは下水道の設置を求める署名運動だったのですが、初瀬をもっと元気にしようという思いから、二〇〇五年にこのフォーラムを立ち上げました」

まちのガイドマップを作成するなどの活動を経て、二〇〇九年から始まった奈良県と早稲田大学による連携事業「門前町における景観まちづくり推進」が転機になる。地域研究を学ぶ学生たちがリサーチを重ね、まちづくりのビジョンを検討する取り組みだ。

「早稲田大学の学生さんが最初から長谷寺を望む景色に感激されたんですよ。われわれにとっては、

長谷寺へと続く門前町。初瀬の山でとれたよもぎをふんだんに使う、風味豊かな草餅を売る店が軒を連ね、土産物としても人気。わらしべ長者ののれんは全部で17枚あり、門前町を歩きながら物語を楽しめる。



日常的に見慣れた眺めだったのですが……」

寺井氏はその後の学生たちのアイデアにも驚かされ、初瀬の良さを再認識したそうだ。

「僕らは表通りだけを地図に載せればいいと思っていました。でも、それだけではあかん、長谷寺に来られる方には、裏通りを含めて歩いてもらって、初瀬の良さを存分に味わってもらえるようにすべき、との提案を頂きました」

額田王、紫式部、菅原道真、本居宣長、松尾芭蕉など。実際に完成した散策ガイドを見れば、初瀬の地には、歴史を輝かしく彩った、実に多くの人々の面影が残っていることがわかる。ここ

で生まれ育った人には当たり前でも、学生たちには宝の山のように思えたことだろう。

「外の人の意見を入れたほうが、活性化しますね。昔からのしがらみのようなものもありましたが、新しい空気が入ったんです」

早稲田大学との連携は今も続いており、町家の改修や地元住民と来訪者との憩いの場所をつくるなど、まち再生のための試みが重ねられていく。高齢を理由に廃業する店もある一方で、初瀬に魅せられて移住し、新たにお店を始める人も。毎月十八日には、長谷寺が舞台の「わらしべ長者」の物語が描かれたのれんをまちに飾り、散策する人の目を楽しませるように



NPO 法人泊瀬門前町再興フォーラム理事長の寺井修司氏。後ろは古民家をリフォームして2018年7月に完成した「憩いの杜 くろもん」。初瀬門前町の一角にあり、観光客の休憩所や地元の人たちとの交流の場になっている。

市長の松井正剛氏によれば、玄関口であるJRおよび近鉄線桜井駅前の再開発が進み、二〇一九年春には駅前ビルがリニューアルされる。そこには、屋内型の遊び場を中心に新たなにぎわいと交流を創り出す施設がオープンする。全国チェーンのビジネスホテルも、桜井市への進出を決定した。そうめん業界も、官民が協力する体制ができてくると松井氏は

「おかげ横丁」のような活性化を指しているという。二〇一七年には返礼品をリニューアルしたふるさと納税「桜井ふるさと寄付金」は、以前の五〇〇万円から一億円と大幅に増えた。そ



高さ約32メートルを誇る大神神社の大鳥居が、桜井のまちを見守る。

もまた「変わるタイミング」を迎えているとのこと。奈良県の主導

未来へとつなげるために  
まちは多彩に進化を目指す

もなった。最近では、隣接する地域のまちづくり団体との連携も増えつつあると寺井氏は話す。「連携の範囲が広がれば、もっといい形での情報発信ができるようになり、それが桜井市全体の認知度向上につながっていくのではないかと期待しています」



で大神神社の参道整備計画が進められ、将来的には伊勢神宮の参道

（地理的表示）の認証を受けたのに加え、二〇一七年には桜井市で三輪素麺普及促進に関する条例を制定しました。また二〇一八年、そ

「奈良県三輪素麺工業協同組合、奈良県三輪素麺販売協議会が中心となった『三輪そうめん意見交換会』がスタート。『三輪そうめん』がGIマーク

の活用先として第一に掲げられているのは、纏向遺跡の調査研究保存事業の推進だ。遺跡の修復や観光施設の建設が進めば、木材業界にも朗報となるだろう。山に守られた地でゆっくりと動

いていた桜井市の菌車は今、スピードを上げて大きくまわりはじめたようだ。古から受け継がれてきた「まほろば」は、これからのような輝きを見せてくれるのだろうか。



桜、あじさい、ばたんなど四季を通じて花々に彩られ、「花の御寺」とも呼ばれる長谷寺。紅葉の秋の景色も美しい。本堂まで続く登廊は上中下の三廊に分かれ、合わせて399段を数える。

対談

# 守 破 創

米国系の銀行や証券会社を経て作家に転身した幸田真音氏。国際金融市場の現場での経験を生かし、それまで小説の題材としては敬遠されてきた「金融」や「経済」に挑み、わかりやすく、楽しんで読める作品を世に送り出してきた。作家になったいきさつや思い、そして小説を通して発し続けるメッセージとは。幸田作品の熱心な読者でもある雨宮正佳副総裁と語り合った。



日本銀行副総裁

## 雨宮正佳

Masayoshi Amamiya

1955年東京都生まれ。79年東京大学経済学部卒業後、日本銀行入行。98年企画室企画第2課長、同年金融市場局金融市場課長、99年企画室企画第1課長、2001年同参事役、02年考査局参事役、04年政策委員会室審議役（組織運営調整）、06年企画局長、10年日本銀行理事（12年～13年大阪支店長嘱託）、14年日本銀行理事再任、18年3月日本銀行副総裁就任。



作家

## 幸田真音

Main Kohda

1951年滋賀県生まれ。米国系の銀行や証券会社でディーラー、外国債券セールス等を経て、95年『小説ヘッジファンド』（講談社）で作家に転身。2000年に発表した『日本国債』（講談社）がベストセラーとなり海外メディアからも注目を浴びる。14年『天佑なり 高橋是清・百年前の日本国債』（角川書店）で新田次郎文学賞受賞。最近著は『人工知能』（PHP）。政府税制調査会、財務省・財政制度等審議会、NHK経営委員会等の委員を歴任。大手企業の社外取締役も務める。

### 「人の営み」を映し出す 経済から小説は生まれる

国際金融市場の現場から  
作家デビューまでの道のり

**雨宮** 幸田さんは作家になる前、最初は外資系の銀行に勤めていたと伺っています。

**幸田** 米国系の銀行に就職し、大阪で働いていました。私が就職活動をしていた一九七〇年代中頃、学生課に届く求人には、女子にのみ「自宅通勤限定」という条件がついていました。女子社員の一人暮らしは認めないというのです。私は英語を使う仕事をしたかったので、自宅から通える企業が見つからない。唯一、その制約がなかったのが外銀でした。

外銀に入社してからは、まず預金や当座貸越業務を担当、輸出入の資金決済や船荷証券買取りなど貿易業務も学びました。世界ではお金やモノがこうやって巡り、経済が回っているんだなと実感でき、毎日が本当におもしろかったですね。

結婚退職して上京しましたが、半年後に復帰した先も米国系の銀行でした。ディールングループで働くアメリカ人ボス二人のアシスタントとして採用され、当初はいわば雑用係でした。為替取引や金融市場の最前



線ですから、怒鳴り声が飛び交い、電話は鳴りっぱなし。なにせ好奇心旺盛なものですから、かかってくる電話を片っ端から取っては、英語に訳して、ボスに伝えていました。ただし素早く、しかも正確でないといけません。大変でしたが、夢中で仕事をしました。やがて、日本国債の市場に関わるようになりました。数十億円、数百億円という巨額の取引を一瞬で決めるので、数字の言い間違いは許されぬ。市場の仕組み、専門用語も必死で勉強しました。そうしているうちに、徐々に周りから信頼を得て、任せてもらえる仕事も増えていきました。

そんな仕事振りを評価したボスに、「アシスタントではもったいない」と言われ、いきなり専門職のディーラーに昇格したんです。すごいサクセスストーリーだと、当時ニューヨーク本社でも騒がれました。アメリカ映画の『ワーキング・ガール』みたいだって。

その後、新設された証券子会社に移籍し、外国債券のセールスをする事になりました。未経験の業務への戸惑いもありましたが、ボスに「ディーラーより格段に取引量の多い顧客を相手にするのでやりがいがある。君はもつと輝かないといけない」と心憎いことを言われて（笑）。

実際、最大手の機関投資家ばかりを担当するゲリラ営業部長（？）みたいでしたね。

**雨宮** まさにサクセスストーリーですね。今までのお話を伺って、私の中で腑に落ちました。と言いますのも、金融市場というのは非常に専門的で、理解するのが大変なのに、どうして幸田さんはそんな金融の世界を、一般の読者にわかりやすく描けるのかと思っていたんです。取引現場の実体験があったということなんですね。

**幸田** その後、社債の発行市場から企業の資金調達（コーポレートファイナンス）まで、色々と経験しましたからね。最初から金融に興味があったわけではなく、知らずに足を踏み入れた世界、予想外の出会いでした。でも学ばば学ばほど金融はおもしろい。加えて、外銀にいるからこそ味わえる驚きや疑問もありました。例えば、日本の金融機関の方と外国人の同僚の発想の違いです。何のために働くかという話題一つ取っても、同僚は当然株主のためと断言します。収益に貢献して株価を上げ、株主を喜ばせて報酬をもらうの

だと。一方で邦銀の方に同じことを聞くと「会社」のためだと。

**雨宮** そうした違いは興味深いですね。外銀でのキャリアを着実に積み重ねていた幸田さんが、作家になろうと思われたきっかけは何だったのでしょうか。

**幸田** 日本の機関投資家相手の外国債券セールスが、ようやく軌道に乗ってきた頃、「ブラックマンデー」<sup>〔注〕</sup>が起きました。これを機に、担当する顧客の取引量も大きく落ち込み、これまでのような成果を出せなくなりました。高額の報酬をもらっているのに部門の収益が上げられない。これが強いストレスになり、十二指腸潰瘍で入院を繰り返す羽目に。結局ドクターストップがかかり、三十八歳で一大決心をして、会社を辞めたんです。

その後、すぐに体調が回復したので、今度は自分で会社を設立し、まともな休みなく働きました。その無理がたたったのでしょうか、五年ほど過ぎた頃、今度は腫瘍が見つかったんです。

**雨宮** 手術が終わり目を覚ました幸田さんに、ご主人が、「ドル・円レートの一〇〇円を割ったぞー」と声をかけてくれた、という話を伺ったこ

とがあります。強烈な気つけ薬のもりだったんでしようね。

**幸田** 実際、よく効きました（笑）。ただ、死を意識したその時、「自分の体は借り物だ」と思ったんです。お借りしていたものを何と粗末に扱ってきたのかと。そして、この世に何も残さず死にたくはないとも。外銀であれだけおもしろい経験をさせてもらったので、せめてそのおもしろさを生きているうちに伝えておかなければ、と焦りを覚えました。そんな思いから、当時の自分と同じ四三歳の女性主人公がヘッジファンドをつくって日本を円高から救うという物語を、誰かが乗り移ったかのように一気に書き上げました。それが『小説ヘッジファンド』というデビュー作になったんです。

### 小説から発せられる 危機管理のメッセージ

**雨宮** 幸田さんの作品を拝読しますと、いつも二つのメッセージを感じます。一つは、デビュー作で為替市場の大きな変動に警鐘を鳴らされたように、想定外の事態や危機にしっかりと備えよ、ということ。もう一つは、経済はまさに人間の営みだということ。日々の暮らしや人生、

〔注〕 ブラックマンデー／1987年10月19日の月曜日にニューヨーク証券取引所で株価が急落し、これを契機に世界的に株価が暴落した。

喜びや悲しみまで映し出す。それが経済だというメッセージが強く伝わってきます。

**幸田** そのように言っていたら、感激です。デビュー当時は、「経済のことさえ書かなければ、作品を読んであげる」と文壇の大御所からも、編集者からも言われたものです。やたら数字が出てくる小説なんて文学じゃないと。純文学などと比べて、経済やお金の話を下に見ているような、そんな雰囲気がありました。

でも、純文学や恋愛小説を書く人はたくさんいらっしゃるでしょ。私を書きたいのは経済だと。経済がむしろいいのは、両極端の理論が両方とも正しい、両立することがあり得る、というところ。例えば円高にしても、良い面、悪い面の両面があります。経済には、回り回って元に戻ることや、どちらも否定しない、どちらも正解、ということがありま

すね。  
**雨宮** そこが自然科学とは違う、やはり人間の営みだと言える部分でしょうね。

**幸田** ですから経済は知れば知るほどおもしろい、ということを読者に伝えたい。一方で、知らないと落

し穴にはまるという危なっかしさもありますよね。知っていれば備えられ、避けられる。そういうことも伝えたい。私は国際金融市場の現場で働いてきたので、つい先を読もうとする習性がある。次に何が起こるか、ものすごく興味があるんです。

**雨宮** 二〇〇四年に上梓された『日銀券』では金融緩和策の転換について、現実より二年早く小説にされました。また一七年に発刊された『大暴落ガラ』は自然災害が一つのテーマでしたが、まさしく一八年は「災」の年になった。常に世の中を先取りして書いておられるように思えますが、小説の題材はどうやって選ぶのですか。

**幸田** 私はよく「好奇心が洋服を着ている」と言われるんです。やけどをするから触るなど言われると、つい触ってみたくなったりして(笑)。小説を書くときも好奇心のままに、膨大な資料や取材から得たインスピレーションをもとに、想像力を無限に膨らませるんです。

ただ、これまで順調に小説を書いてきたわけではありません。現実には打ちのめされ、小説が書けなくなつた経験もしました。「9・11」が起

きた時です。あの日、私は都内のホテルで缶詰になり、サイバーテロを題材にした長編小説を書いていたんです。その時、昔の仕事仲間からメールが来ました。テレビをつけたら世

界貿易センタービルに飛行機が突っ込んだ……。あのビルの斜め前には、以前勤務していた銀行の本社ビルがあります。こんなリアルなものを見せられて、私はフィクションでテロを書く意味がどこにあるんだと暗澹たる思いに陥りました。もう書けない、作家を辞めようかと。

**雨宮** そんな大変な状況で、何が幸田さんを再び小説に向かわせたのでしょうか。

**幸田** 執筆を再開させてくれたのは、読者から届くメールでした。そこには、「自分は為替トレーディングの仕事で完全に行き詰まっていたが、幸田さんの小説で元気をもらつた」とか、たくさん励ましの言葉がありました。そんな読者からの感想を読んでいるうちに、そういう方が一人でもいてくださるのなら、私が小説を書く意味はあるのかなと。そう思えたとき、「9・11」と真正面から向き合う小説を書こうと決めた。『コイン・トス』と題する短編

を一晚で書き上げたんです。

### 「答え」のない世界で 読者に思考してもらおう

**雨宮** 今年二月には『人工知能』と題する新著も出されました。私は昔からSF小説が好きで、若い頃からアイザック・アシモフなどを読んできました。ぜひ幸田さんに、経済SF小説を書いていただきたいと思っているんです。というのも、近年の変化は本当に速くて、例えば一〇年前はスマートフォンが登場したばかり、SNSの利用もほとんどなかったわけです。それらが今ではこれだけ普及している。この先はもっと速くて大きな変化があるのかもしれない。そうした変化を予測しようとする場合、科学的に詰めながら議論する方法もあれば、SF小説のようにフィクションの世界のなかで思考実験していく方法もあると思うんです。

**幸田** 小説は、まさに読者に疑似体験をしてもらうものだからね。何が起きるか、落とし穴はどこにあるか、登場人物に感情移入しながら考えることもできます。

**雨宮** われわれも昔、経済学のテキストだけではなく、城山三郎さんの



『小説 日本銀行』や『男子の本懐』、山崎豊子とよこさんの『華麗なる一族』などを読んで、経済や社会の仕組みを疑似体験し、自分ならどうするかを考えました。今の若い世代にとって、幸田さんの本がそういう役割を担っているのかもしれないね。

**幸田** そう言っていたくのは大変光栄です。ただ最近心配なのは、インターネットやSNSが普及した影響でしようか、長編をしつくり読んだり、行間を深く読み込んだりすることなく安易に答えを求める風潮が強まっていることです。情報があふれ、キーボードを叩けば答えらしきものが出てくる今の世の中。自分の気に入ったものだけを、何の疑問も持たずに受け入れる。違う意見が出てくると、それを頭から否定したり、ダメだと決めつける。「深く考える」

というプロセスが抜け落ちてしまった気がしてなりません。

若い編集者のなかには「幸田さん、答えを書いてください」と言う人もいます。小説というのは、読者自身がその世界のなかに入り、主人公はなぜこんなことを言うのか、この人物はどうしてあんな行動をとるのかを、考えてもらうものです。私が生んだ登場人物が読者によって別の命を与えられる、私は、それこそがおもしろいと思って小説を書いているのですが、安直に「答え」を求められてしまうんです。

**雨宮** 小説は、ある種の「実験室」のなかにいろいろな人物が集まり、動きながら進んでいくものですね。「答え」は、登場人物にも、場合によっては書いている作家自身にもわからないかもしれない。

**幸田** おっしゃる通りで、書いている私自身にも「答え」がわからないことだらけです。でもそれこそが小説の奥深い魅力ですよ。最近、そういう小説のおもしろさがないがしろにされているように感じます。私にはあえて、「答え」は読者が出すものですよと言っています。

**雨宮** 幸田さんは、経済小説を書か

れるわけですが、どんな読者を想定していらっしゃるんですか。

**幸田** 私自身、特定の読者層を想定してものを書くことはしていません。『日本国債』のサイン会を開いた時は、小学五年生の少年から八〇歳のご婦人まで幅広い年齢層の方が来ていただきました。経済のおもしろさを一人でも多くの読者に知ってほしいですし、その方の人生に少しでも役立てればこんなうれしいことはありません。経済を知られば、いろいろなリスクコントロールの仕方もわかってきます。生きていくうえでリスクとどう向き合うか、これを伝えるのは私の永遠のテーマだと思っています。

**雨宮** 経済や金融の専門的な分野を扱われる場合など、難しいことをわかりやすく伝えるご苦労があるかと思えます。われわれも金融政策をいかにわかりやすく世の中に伝えていくか、試行錯誤しています。

**幸田** 私は、金融や経済を軸足にさまざまな分野や時代を題材に書いています。もちろん、その分野のプロの方も作品を読んでくださいます。フィクションとはいえ、そうした方々が読んで「こんなことはあり

得ないよ」などと言われることのないよう、その分野の第一人者に取材したうえで書くようにしています。

そういった方々は、現場で実際に何が問題となっているのか、切実に実感しておられますし、それを正しく世の中に伝えてほしいと言われます。私は、そうした思いを大切に作品に込め、細部までおろそかにせず、書くようにしています。

一方で、正確さを追求しすぎて内容が専門的になりすぎると、読者はついてこられなくなります。そこをいかにおもしろくするかが腕の見せどころです（笑）。その点、小説は人の営みとしての経済や金融を描くことができますから、敷居の高い専門的な内容をわかりやすく伝えるのに適した手段だと思っています。だからこそ私は小説にこだわって書いているのです。

人にわかってもらうというのは、とても難しいですよ。だから私は、二四年も作家が続けているんだと思います。簡単だったらとっくに辞めているでしょうね。これからも日々、チャレンジです。

**雨宮** 本日は貴重なお話をありがとうございました。



## 貨幣の世界 — 最終回

貨幣同士の識別を簡単にしたり、偽造しづらくするために、さまざまな形が採用されることがあります。最終回となる今回は、近代以降を中心とした穴(孔)開き貨幣、さらに変わった形の貨幣をご紹介します。

### 形 その7

# 現代の貨幣 国もいろいろ形もいろいろ (5)

#### 穴開き貨幣

日本で日常的に使用される五円貨と五〇円貨には穴が開いています(有孔と言います)。こうして貨幣に穴を開けるのは、①他の貨幣との混同を避ける、②偽造防止対策、③原材料費の節約、のためだと言われています。

さて、普段から五円貨や五〇円貨を使っているわれわれ日本人にとって、穴開き貨幣はなじみ深いものです。ところが、世界に目を転じると、現在日常的に使う貨幣のデザインに穴開きを採用している国は、それほど多くありません。二〇一八年末時点で日常的に使用される貨幣として穴開き貨幣を発行しているのは、日本以外では、デンマーク、最近まで発行されていた国を加えても、ノルウェー、フィリピン、パプアニューギニアくらいです。

写真1 日本 50円ニッケル貨・無孔 (1955～58年発行)



(直径 25mm、重量約 5.5g)

写真2 日本 50円ニッケル貨・有孔 (1959年～66年発行)



(直径 25mm、重量約 5g)

50円貨については、穴開きではないもの(写真1)が発行された際、同じ時期に発行された100円貨と区別しづらいという声があり、穴を開けたものが発行されました。以後、サイズやデザインが変更された後も、穴開きが踏襲されています(写真2)。(写真提供:独立行政法人造幣局)

写真5 フィリピン 5センチモ銅メッキ銅貨  
(1995～2016年発行)



鉄を銅で覆った貨幣です。表面には数字と「フィリピン共和国」、裏面には「フィリピン中央銀行」の文字が刻まれたシンプルなデザインです。2018年3月からは、穴がない5センチモ貨に変更されており、この穴開き貨幣もいずれ日常的に目にするとはなくなるでしょう。(直径15.5mm、重量約1.9g)

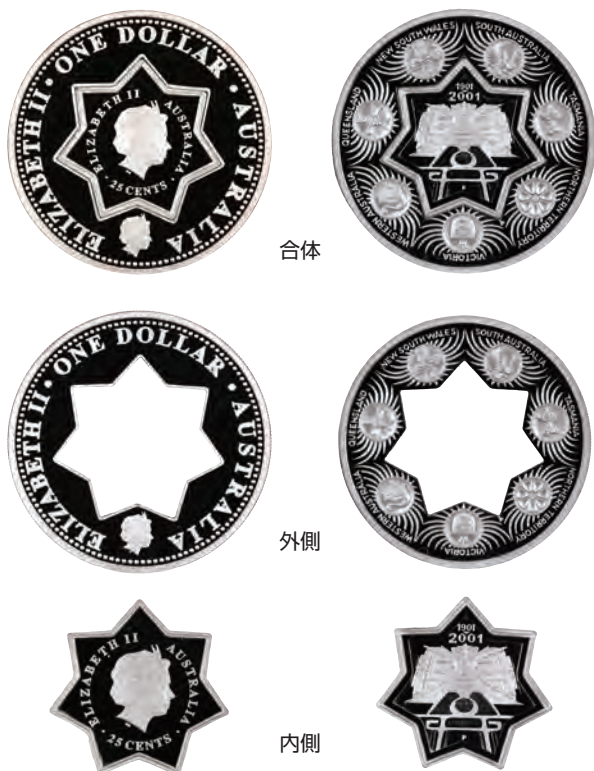
こうしてみると、五円貨や五〇円貨が、貴重な貨幣に見えてきませんか？

**変わり種**

記念貨幣や収集家向けの貨幣は、実用を念頭においていないことから、実にさまざまな形の貨幣があります。

左下のオーストラリアや次頁上のラトビアの貨幣は二つに分離します。次頁下のオーストラリアやフランスの貨幣もそれぞれ変わった形をしています。続いては、そうした変わった形の貨幣をご紹介します。

写真6 オーストラリア 外側1ドル銀貨、内側25セント銀貨  
(2001年発行)



合体

外側

内側

穴開きの記念貨幣あるいは収集用貨幣は他にもありますが、穴が星形かつ2つの貨幣に分離するものは他にはないようです。(外側：直径40.4mm、重量約31.1g、内側：直径24.8mm、重量約7.8g)

写真3 デンマーク 5クローネ白銅貨 (2002年～発行)



デンマークでは、5クローネ白銅貨のほか、1クローネおよび2クローネ白銅貨も穴開き貨幣です。貨幣のデザインにはデンマークの国章にあるハートマークに加え、デンマーク女王のマルグレーテⅡ世のイニシャルをあしらった模様(M II)が描かれています。(直径28.5mm、重量約9.2g)

写真4 ノルウェー 5クローネ白銅貨 (1998～2012年発行)



ノルウェーでは、5クローネ白銅貨のほか、1クローネ白銅貨で穴開き貨幣が発行されていました。同国では、デンマークと同じ「クローネ」という名称の通貨単位が用いられています。この「クローネ」とスウェーデンの通貨単位「クローナ」、そしてかつての英国の通貨単位「クラウン」のいずれも、「王冠」という意味です。(直径26mm、重量約7.9g)

## おわりに

今回で、あしかけ三年にわたる「貨幣の世界」も最終回となります。

古代から現代まで、多角形や穴開き・不思議な形の貨幣など、さまざまな貨幣を紹介してまいりましたが、いかがでしたか。

これまでご覧いただいたてきたとおり、貨幣は、歴史家のヘロドトスや司馬遷しはせんが生きていた二〇〇〇年以上も昔ですら起源が不明なほど長い歴史を持っています。

この連載をきっかけに、貨幣やその歴史に多くの方が興味を持ってくださればと思います。

写真7 ラトビア 1ラツ銀貨 (2012年発行)



ラトビアはバルト海沿岸の北欧の国です。18世紀にロシアに併合されましたが、1918年に独立を宣言しました。しかし1940年にソビエト連邦(現・ロシア)に占領され、ソビエト連邦が崩壊した1991年に再独立しました。写真の1ラツ銀貨も、写真6のオーストラリアの星形穴開き銀貨と同様に、収集家向けの分離する貨幣(あるいは2つの貨幣の組み合わせ)です。ラトビアの首都リガに位置するリガ工科大学の創立150年を記念して発行されたもので、製図に使う定規やコンパス、分度器を模した独特の形をしています。

(直径32mm、重量約26g)

写真9 フランス 1フラン銀貨 (2001年発行)



2001年のユーロ移行直前に発行された「最後の1フラン銀貨」です。一見すると平板な円形のように見えますが、横から見ると「~」の形のように縁以外が波打ったような形をしています。

(直径32.5mm、重量約17.8g)

写真8 オーストラリア 1ドル銀貨 (2013年発行)



国の形をした貨幣もいくつかの国で発行されていますが、その代表例としてオーストラリアをご紹介します。写真のカラーコインはオーストラリア固有の動物をデザインに採用したシリーズの一つです。写真のカモノハシの他にもコアラやカンガルー等の動物がデザインされた貨幣が発行されています。

(重量約31.1g)

## お別れの貨幣たち

欧州諸国は長年繰り返された戦乱の経験をかえりみて、第二次世界大戦後、域内交通の自由化、法律の整合性の推進、共通市場の創設等を進めました（その歩みについては、本誌39号「対談」記事をご覧ください。右QRコードからアクセスできます）。



そして2001年、ついに通貨の統一に踏み出しました。ユーロの誕生です。これは、ユーロ採用国にとっては、長い歴史を反映したその国の貨幣単位が消えることを意味します。そこで、写真9のフランスの1フラン銀貨同様に、いくつかの国では、「最後の」と銘打った自国通貨単位の貨幣を発行しました。その中から2つをご紹介します。

オランダは、日常的に使われていた1ギルダー白銅貨を1999年に金貨で発行したほか、

2001年にニッケル貨（写真：最後のオランダ・ギルダー）も発行しました。デザインは、表面がベアトリクス女王、裏面はオランダの国章にも描かれているライオンが国旗を持っている絵を子どもが描いたものです。

またドイツでは、日常的に使われていた1マルク白銅貨（写真：通常のドイツ・マルク）を、2001年に金貨（写真：最後のドイツ・マルク）で発行しました。同国ではプロイセン王国によって統一されたドイツ帝国時代（1871～1918年）以来の金貨発行でした。

デザインは一見すると似ていますが、裏面にある文字が、白銅貨の「BUNDESREPBLIK DEUTSCHLAND（ドイツ連邦共和国）」ではなく、金貨では「DEUTSCHE BUNDESBANK（ドイツ連邦銀行）」となっています。

最後のオランダ・ギルダー

1ギルダーニッケル貨  
（直径25mm、重量約6g）



通常のドイツ・マルク

1マルク白銅貨  
（直径23.5mm、重量約5.5g）



最後のドイツ・マルク

1マルク金貨  
（直径23.5mm、重量約12g）



（写真1・2をのぞき写真はすべて個人蔵）

日本銀行総務人事局 日本銀行におけるダイバーシティ推進の取り組み

すべての職員が  
能力を最大限に発揮できる組織を目指して

近年、多くの企業がダイバーシティの推進（多様な人材の活用）に取り組んでいます。性別、年齢、国籍、障がいの有無、宗教、信条、性的指向・性自認などを問わず、多様な人材の活躍を促すことが組織に活力を与えるためです。日本銀行でも、総務人事局総務課に設けられた「ダイバーシティ推進グループ」を中心に、「すべての職員がそれぞれの能力を最大限に発揮できる」ことを目指して環境整備を進めています。取り組みには、制度の拡充だけでなく、すでにある制度をより円滑に利用できるようにしたり、意識啓発のための研修を実施するといった活動も含んでいます。今回は、日銀が経営上の課題としてこれまで取り組んできたダイバーシティの推進について、具体的に紹介します。

先駆けて導入したフレックスタイムと  
培われてきた「働く女性」支援の土壌

日銀総務人事局総務課に「ダイバーシティ推進グループ」が設置されたのは二〇一五年一月。現在（一九年二月末）の所属メンバーは男女四名ずつの計八名。同グループ長の五神玲子（かみ）さんは「ダイバーシティに関する制度の設計・導入は、同じ課の人事制度企画グループが行っていました。その後、導入された制度が使いやすくなるように環境を一層整え、

職員の意識の啓発にも継続して取り組む必要があるという考えから、専担部署としてダイバーシティ推進グループ（以下、推進グループ）が新設されました」と説明します。

振り返ると、日銀はダイバーシティという概念が日本で広がり始める前から雇用環境の整備や制度の導入などを進めてきました。〇五年、施行された次世代育成支援対策推進法に基づいて「第一期行動計画」（注1）を策定し、施策の一つとして〇八年一月にはフレックスタイム制を導入。業務に支障のない

範囲でコアタイム（午前十時～午後三時）以外は裁量による出勤を認めました。推進グループの金城一樹（かねしろ）さんは「当時、金融機関でフレックスタイム制を導入していたところは少なく、世間対比でみて先進的な取り組みでした。同制度があるおかげで、育児や介護との両立がしやすくなったなどの声も聞かれています」と言います。

「その三年後、第二期行動計画の施策として『時間単位の年次有給休暇（時間休）』も導入。一日単位、半日単位だけでなく、時間単位でも有給で休めるようになったのです。職員は育児や介護などがあっても、ワーク・ライフ・バランスに取り組みやすくなりました。私自身も子どもの世話をするために時間休を活用しています」

フレックスタイム制は本店だけでなく、一六年八月からは支店・事務所でも導入されました。制度の適用を受ける職員数は年々増え、現在では全職員の約三割、一五〇〇人程度がフレックスタイム制を利用しています。



「えるぼし」第3段階(最高レベル)認定マーク(右)と「プラチナくるみん」認定マーク(左)



また、日銀では「女性にとって働きやすい職場作り」も積極的に進めてきました。妊娠中は時間外勤務の制限や通院時間の確保などの勤務措置があり、出産予定日の六週間前から欠勤が認められますが、さらに育児休業のうち五日を有給とする制度(注2)も導入されているほか、育児目的での短時間勤務制度や看護休暇も利用できます。本店では、子どもが認可保育所に入所できない場合、事業所内保育所の利用もできます。本店からほど近い場所に認可保育所と同程度の人員配置や広さなどを備えた施設を確保しており、職員に利用されています。

日銀では、常勤職員の半分ほどを女性が占めています。産育休からの復帰者の割合は「ほぼ一〇〇%」と言います。これは制度が整っているから、という理由だけではないでしょう。五神さんはこう言います。

「ライフステージが変わっても日銀で公共性に資する仕事に携わってきたい、そういう意識を持つ女性職員が多いからだと思っています。また、日銀には、男性・女性問わず、

育児をしながら働き続けることを応援しようという土壌があり、そのうえに出産・育児等の支援制度が整えられてきたのです」

フレックスタイム制や時間単位の有給休暇は職員の間にも定着しており、こうした制度を利用する人としらない人の間に意識のギャップはほとんどないと言います。制度利用が必要な職員はちゅうちよなく使える雰囲気醸成されている、ということ。なお、「ワーク・ライフ・バランスを実現できているか」との職員向けアンケートでは、約八五%が「できている・どちらかというときている」と回答しました。「日銀は、働きやすさを高め、より能力を発揮してもらうことに前向きな会社であり、そのために、職員の個別事情も踏まえてきめ細かな対応を行っています」と金城さんは強調します(注3)。

注1) 次世代育成支援対策推進法では、企業が、労働者の仕事と子育ての両立を図るために行動計画を策定することが求められています。これに基づき、日銀では〇五年の第一期行動計画に続き、一〇年からの第二期行動計画、一四年からの第三期行動計画を経て、現在は一八年に策定した第四期行動計画が実施されています。

注2) 育児休業のうち五営業日までを有給とする育児休業制度が一五年四月に導入されました。これによって男性職員の育児利用も促進され、一七年の男性育児取得率は三五%となっています。なお、本店の男性の幹部職員が育児を取得した例もあります。

注3) 日銀は一八年、次世代育成支援対策推進法に基づき厚生労働大臣による「プラチナくるみん」の認定を受けました。同認定は「くるみん」の認定を受けた企業のうち、「男性の育児休業取得」「長時間労働の抑制」「多様な労働条件の整備」「出産した女性労働者の継続就業」などの項目について、より厳しい基準を満たした企業が受けられるものです。

**研修やセミナーで意識啓発し、職場復帰、キャリア形成、相互理解を促進する**

推進グループでは、制度設計に加え、職員のダイバーシティにかかる意識の啓発にも継続して取り組んでいます。その一つが研修の実施です。日銀では主として総務人事局人材開発課が各種の研修を企画・実施していますが、その中でダイバーシティ研修も年間三〇回ほど行い、五神さんや金城さんが講師となつて日銀のダイバーシティ推進の考え方や方向性を説明しています。

推進グループ自身が企画・実施する研修もあります。同グループの設立から年一回実施している研修が「職場復帰支援セミナー」です。直近の同セミナーには、妊娠中や産育休中、育休から復帰後の女性だけでなく、配偶者が育休中などの男性職員も多く参加し、参加者は一〇〇名近くにのぼります。研修の様子は支店等の部署にもテレビ中継しました。企画・運営を担当した推進グループの佐藤恵美さんは、次のように話します。

「育休中などの職員の中には、復帰後に仕事と育児を両立できるだろうかと不安に感じている方も多くいます。研修では産育休からの復帰に際しての準備や心構えに焦点を当て、復帰後をイメージできるように内容にしています。外部から専門家を招き、講義を行つ

たり個別の質問も受け付けたり、さらに保活（保育所探し）についても情報提供や具体的なアドバイスを行いました」

佐藤さん自身も育児をしながら働く女性職員ですが、「育休中は職場と接触する機会が意外と少ないと感じた」と話します。しかし、こうした復帰支援セミナーの案内を職場から自宅に送ってもらえるだけで「（産育休中の）自分のことを気にかけてくれている」という安心感が生まれると言います。

日銀は、一六年に施行された女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）の定めに基づく行動計画も策定しています。そのなかで、女性職員の登用の拡大に向け、「企画役級以上」（注4）の職員に占める女性の割合や、将来の管理職候補として採用される総合職・特定職の採用者に占める女性の割合について目標を設定しています。

推進グループの藤尾恒（ひさし）さんは「こうした目標に向けた取り組みの一つとして、女性職員のキャリア形成をサポートする『女性キャリアセミナー』を実施している」と話します。

直近の同セミナーは、法律・経済・語学・システムといった専門分野に特化した仕事をする女性職員を対象に実施しました。藤尾さんは「キャリアを形成していく過程において、結婚・出産・育児などのライフイベントに直面するということが少なくありません。その

時、仕事と育児の両立のなかで、たとえば時間的な制約に悩むこともあると思います。どうすればワーク・ライフ・バランスを確保しながらキャリアを形成していくことができるのか。そうした悩みや問題意識についてじっくりと考えること、また、将来に向けたキャリア形成の戦略を考える機会を提供すること。それが今回のメインテーマでした」と話します。

セミナーでは、まず女性役員が自身の職業経験も踏まえつつ、キャリア形成の過程で意識しておくべきこと等について講話を行いました。その後、外部講師による講義・演習に続き、本店で管理職として活躍している女性職員に登場してもらい、仕事に取り組む上でスタンスや工夫、後輩・チーム員の指導等で気を付けていることを直接話してもらい、セミナー参加者との意見交換を行う時間も設けました。

「参加者からは、『実際に管理職に就き、他部署との調整等の責任を伴う仕事をしている先輩と意見交換することで、職場のリーダーとして求められる能力についてあらためて考えるいい機会となった』とか、『リーダーとしてチームを引っ張ることについて、大変さばかりを想像していたが、管理職として一定の裁量を持ちながら組織に貢献し、それが仕事のやりがいにもつながっているということがよく分かった』といった声が聞かれました」



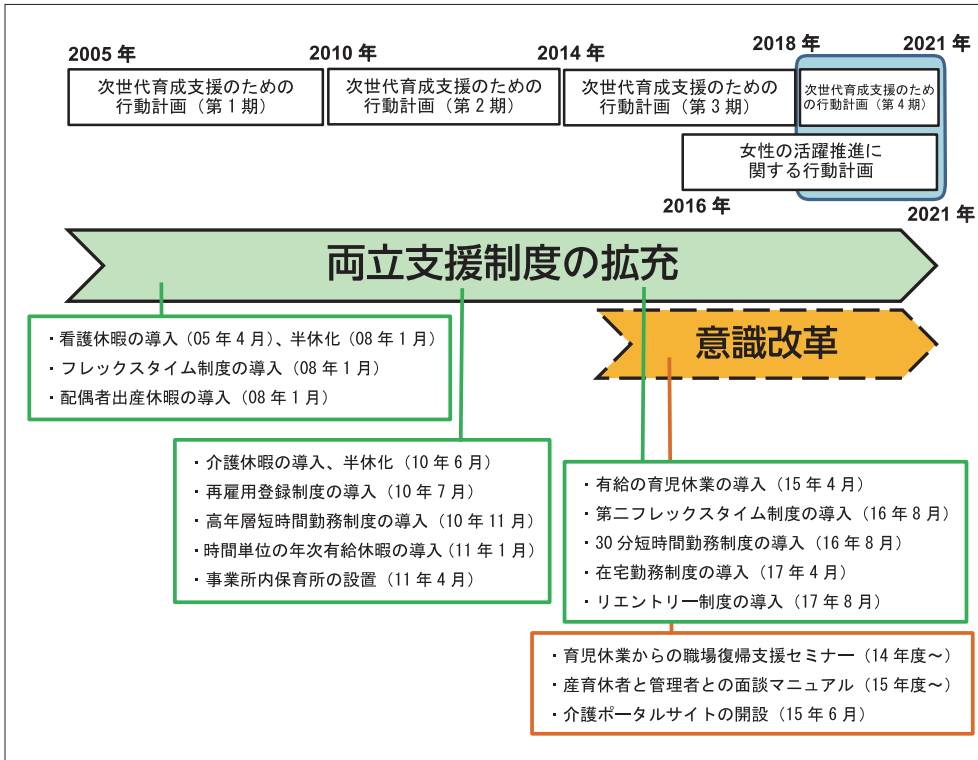
職場復帰支援セミナーの様様

と、藤尾さんは言います（注5）。

ダイバーシティは女性活躍にとどまりません。推進グループでは、職場運営の一助とすべく、管理職を対象に「障がいを持つ方を部下に持った場合のマネジメント」というテーマでセミナーを実施しました。こうしたセミナーを企画した理由について、金城さんは次のように話します。

「日銀のダイバーシティ推進は『すべての職員』を主語としており、実際、本支店の多くの職場で障がいを持つ職員が活躍しています。今回は、障がい者の雇用の促進といった社会的要請も踏まえ、障がいを持つ職員がより一層能力を発揮して組織に貢献していくためのマネジメント上の工夫等について考える機会とすべく企画しました。セミナーには、多くの役員や本支店の幹部職員も参加しました」

# 日本銀行におけるダイバーシティ推進の取り組み



変化に強い組織であるために  
多様な人材を確保する

日銀における将来の管理職候補である総合職・特定職で新規採用した職員に占める女性の割合は、近年、三割を超えています。推進グループと総務人事局人事課を兼務し

採用活動を担当する田尾<sup>かずてる</sup>さんは「日本経済に貢献したいという意気込みのある、さまざまなバックグラウンドを持った人に来てもらいたいという思いで採用活動をしています」と話します。

日銀の採用パンフレットでは、一六年から「女性の活躍に向けて」と題したページを新たに作り、出産・育児支援制度などを積極的に紹介しています。女性の採用が多いのはこうした「入り口」の広報活動も背景にあるでしょう。また人事課の担当者らは支店と協力しながら全国各地の大学に足を運んだり、海外の就職フォーラムに参加したりと多様なルートで採用活動を展開しています。田尾さんは、次のように話します。

「日銀の社会的な使命（物価の安定と金融システムの安定）は変わりませんが、外部環境は大きく変化しています。その使命を果たす上での人事制度や働き方も時代とともに変化すると思います。日銀が変化に強い組織であるためには多様な人材が必要不可欠です。今後とも公的使命感を持った多様な人材に来てもらいたいと考えています」

ダイバーシティ推進に関する取り組みについては、推進グループから

日銀の最高意思決定機関である政策委員会に定期的に報告し、総裁を含む役員から意見をもらいます。金城さんによれば「報告の際には、多様な観点からの議論が行われます。たとえば、『こういう施策はできないものだろうか』といった示唆をいただくこともありま

す」とのこと。役員を含め、日銀はダイバーシティ推進を重要な経営課題に位置づけているのです。

ダイバーシティ推進に向けた取り組みは多くの企業で行われています。推進グループでは、社会一般の動向を把握すべく、民間金融機関等や各国中銀から情報収集を行っています。先進的な企業では、近年の「働き方改革」への対応として、仕事の在り方・進め方そのものを見直す取り組みも広がっており、そうした動きがダイバーシティ推進を後押ししてきています。ダイバーシティは「ゴールなき取り組み」です。これからも、多様な人材を集めつつ、性別や障がいの有無などにかかわらずに一人ひとりが個として尊重され、能力を発揮できる組織を目指して、日銀の挑戦は続きます。

〔注4〕「企画役」は日銀において担当業務を取りまとめて遂行し、部門内の組織の運営・管理の役割を担う管理職です。

〔注5〕日銀は一七年五月、女性活躍推進の取り組みの実施状況等が優良な企業として、「採用」「継続就業」「管理職比率」などの全評価項目で認定基準を満たし、厚生労働大臣の認定「えるぼし」評価のうちの最高レベルである第三段階に認定されました。



# 日本銀行のレポートから

日本銀行は、1、4、7、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。本稿では、2019年1月の展望レポート（基本的見解は1月23日、背景説明を含む全文は1月24日公表）のポイントを解説します。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。<http://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/>

## 「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）

二〇一九年一月

### 二〇一八～二〇二〇年度の 中心的な見通し（図表1・2）

#### 【景気】

海外経済が総じてみれば着実な成長を続けるもとで、設備投資の循環的な減速や消費税率引き上げの影響を受けつつも、きわめて緩和的な金融環境や政府支出による下支えなどを背景に、二〇二〇年度までの見通し期間を通じて、景気の拡大基調が続くと見込まれる。

#### 【物価】

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、プラスで推移しているが、景気の拡大や労働需給の引き締まりに比べると、弱めの動きが続いている。

これには、①賃金・物価が上がりにくいことを前提とした考え方や慣行が根強く残るもとで、企業の慎重な賃金・価格設定スタンスなどが明確に転換するには至っていないことに加え、②企業の生産性向上に向けた動きや近年の技術進歩なども影響している。こうした物価の上昇を遅らせてきた諸要因の解消に時間を要している中で、中長期的な予想物価上昇率も横ばい圏内で推移している。

もつとも、マクロ的な需給ギャップがプラスの状態が続くもとで、企業の賃金・価格設定スタンスが次第に積極化し、家計の値上げ許容度が高まっていけば、実際に価格引き上げの動きが拡がり、中長期的な予想物価上昇率も徐々に高

まるとみられる。この結果、消費者物価の前年比は、二％に向けて徐々に上昇率を高めていくと考えられる。

#### リスクバランス

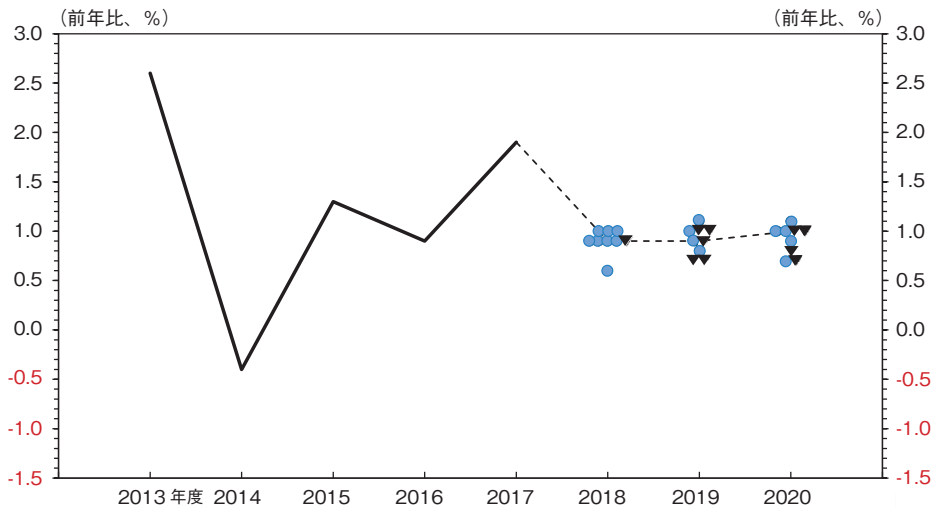
経済・物価ともに下振れリスクの方が大きい。物価面では、二％の「物価安定の目標」に向けた momentum は維持されているが、なお力強さに欠けており、引き続き注意深く点検していく必要がある。

#### 金融政策運営

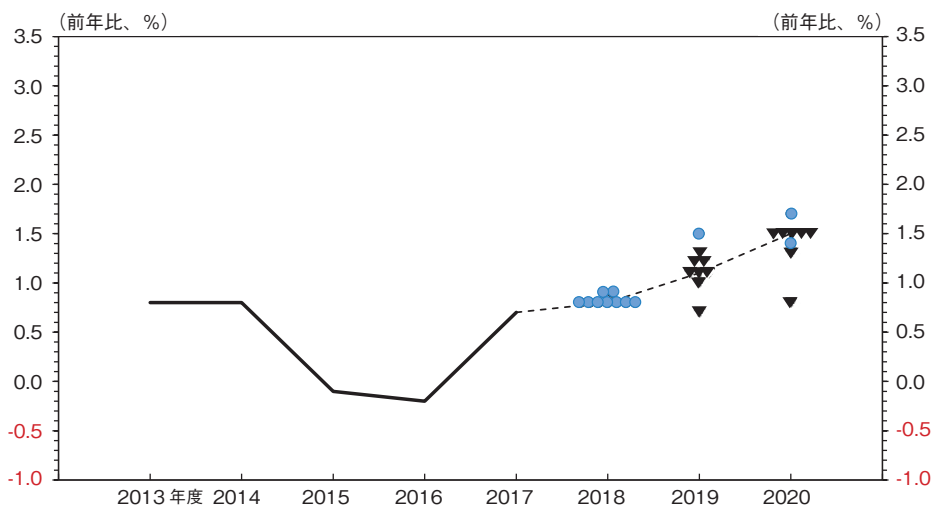
二％の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続する。マネタリーベースについては、消費者物価指数（除

図表 1 政策委員の経済・物価見通しとリスク評価

(1) 実質 GDP



(2) 消費者物価指数 (除く生鮮食品)



(注1) 実線は実績値、点線は政策委員見通しの中央値を示す。

(注2) ●、△、▼は、各政策委員が最も蓋然性が高いと考える見通しの数値を示すとともに、その形状で各政策委員が考えるリスクバランスを示している。●は「リスクは概ね上下にバランスしている」、△は「上振れリスクが大きい」、▼は「下振れリスクが大きい」と各政策委員が考えていることを示している。

(注3) 消費者物価指数 (除く生鮮食品) は、2014年度、2015年度については、2014年4月の消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベース。

く生鮮食品)の前年比上昇率の実績値が安定的に二%を超えるまで、拡大方針を継続する。政策金利については、二〇一九年十月に

予定されている消費税率引き上げの影響を含めた経済・物価の不確実性を踏まえ、当分の間、現在の低きわめて低い長短金利の水準を維

持することを想定している。今後とも、金融政策運営の観点から重視すべきリスクの点検を行うとともに、経済・物価・金融情勢を踏

図表 2 政策委員見通しの中央値

(対前年度比、%)

	実質 GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	(参考) 消費税率引き上げ・教育無償化政策の影響を除くケース
2018年度	+ 0.9		+ 0.8
(10月時点の見通し)	(+ 1.4)		(+ 0.9)
2019年度	+ 0.9	+ 1.1	+ 0.9
(10月時点の見通し)	(+ 0.8)	(+ 1.6)	(+ 1.4)
2020年度	+ 1.0	+ 1.5	+ 1.4
(10月時点の見通し)	(+ 0.8)	(+ 1.6)	(+ 1.5)

(注) 消費税率については、2019年10月に10%に引き上げられること(軽減税率については酒類と外食を除く飲食品および新聞に適用されること)、教育無償化政策については、幼児教育無償化が2019年10月に、高等教育無償化等が2020年4月に導入されることを前提としている。

まえ、「物価安定の目標」に向けたモメンタムを維持するため、必要な政策の調整を行う。



# 日本銀行のレポートから

「地域経済報告」（さくらレポート）は、日本銀行本支店等が、日頃、企業ヒアリング等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、年4回（1月、4月、7月、10月）の支店長会議の機会毎に取りまとめたものです。また、その時々々のトピックスについても、本報告の別冊として、原則年2回、まとめています。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/

## 「地域経済報告」（さくらレポート）

### I. 各地域の

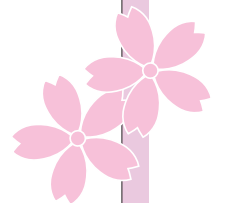
### 景気判断の概要

— 二〇一九年一月 —

各地域の景気の総括判断をみると、全ての地域で「拡大」または「回復」としている。前回（一八年十月時点）と比較すると、地震や豪雨など自然災害の影響から判断を引き下げていた北海道と中国では、復旧・復興が進んでいる状況を踏まえ、判断を引き上げている。それ以外の

	【18/10月判断】	前回との比較	【19/1月判断】
北海道	基調としては緩やかに回復しているものの、北海道胆振東部地震の影響による下押し圧力がみられている	➡	基調としては緩やかに回復しており、北海道胆振東部地震の影響による下押し圧力は緩和を続けている
東北	緩やかな回復を続けている	➡	緩やかな回復を続けている
北陸	拡大している	➡	拡大している
関東甲信越	緩やかに拡大している	➡	緩やかに拡大している
東海	拡大している	➡	拡大している
近畿	台風21号による経済活動面への影響がみられるものの、緩やかに拡大している	➡	緩やかな拡大を続けている
中国	平成30年7月豪雨によりダメージを受けたものの、社会インフラの復旧等に伴い、豪雨の影響が低減する中で、基調としては緩やかに拡大している	➡	緩やかに拡大している
四国	回復している	➡	回復している
九州・沖縄	しっかりとした足取りで、緩やかに拡大している	➡	しっかりとした足取りで、緩やかに拡大している

(注) 前回との比較の「➡」、「➤」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」）。なお、前回に比較して景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。



七地域（東北、北陸、関東甲信越、東海、近畿、四国、九州・沖縄）では、前回の判断から変更はない。

こうした各地域の判断の背景には、海外経済が総じてみれば着実な成長を続けるもとで、輸出が増加基調にあることや、労働需給が着実に引き締まりを続け、個人消費が緩やかに増加す

## Ⅱ. 別冊「人手不足のもとでの賃金動向と

### 新たな給与体系の構築に向けた取り組み」

—二〇一八年十二月—

#### 1. はじめに

わが国では、労働需給は着実な引き締まりを続けており、雇用・所得環境が着実に改善している。賃金面をみると、一人当たり名目賃金は、振れを伴いつつも、緩やかに上昇し

るなど、所得から支出への前向きな循環が続いていることが挙げられている。ただし、米中貿易摩擦をはじめとする海外経済の不確実性の影響については、現時点では限定的なものにとどまっているが、受注の下振れなどを指摘する声は徐々に増えている。

ている。ただし、賃金上昇は、労働需給の引き締まりに比べて、弱めにとどまっている。

先行きの物価動向を展望するうえで、賃金がどのように推移するか、その前提として、企業の賃金設定スタンスや給与体系がどのように変化していくかという点は、重要

な論点のひとつである。

そこで、日本銀行の本店・事務所では、「人手不足のもとでの賃金動向と新たな給与体系の構築に向けた取り組み」をテーマとして、全国約二千先の企業等に聞き取り調査（期間は一八年七月十月）を実施した。以下では、その結果等に基づいて、まず、人手不足のもとで、企業がどのような賃金設定スタンスにあるかについて整理する。次に、給与体系を見直す動きがあるか、あるとすれば、どのような変化があるかを確認する。最後に、今後の注目点を簡単にまとめる。

#### 2. 人手不足のもとでの

##### 賃金動向

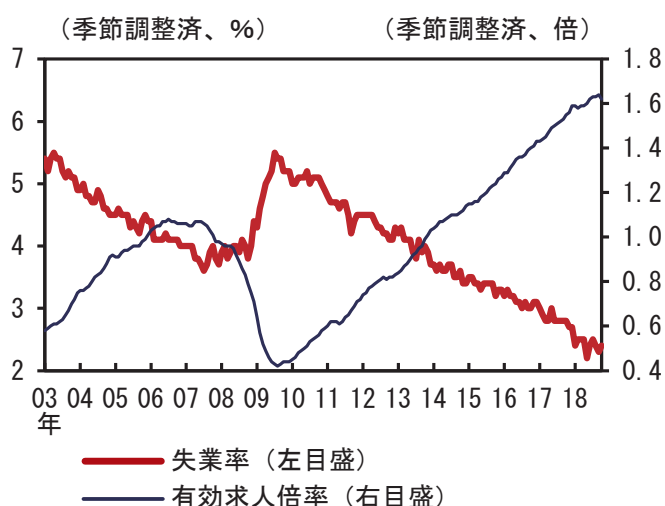
労働需給が着実な引き締ま

りを続けるなか、賃上げの動きは広範にみられている。アンケート調査をみると、定期昇給を含めて賃上げを実施した企業は全体の八割以上を占めている（次頁図表1、2）。

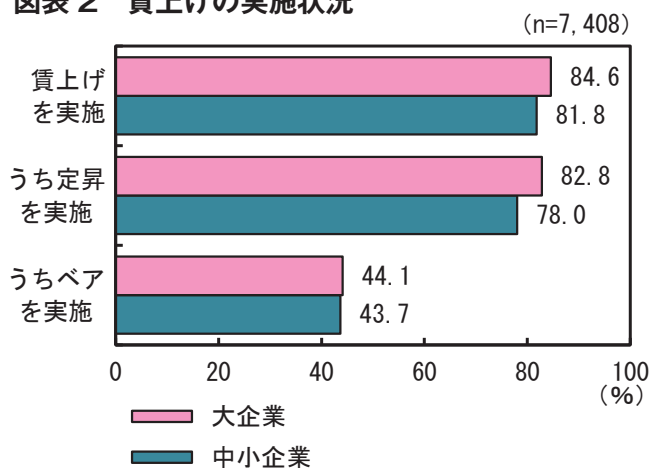
今回の調査でも、多くの先から賃上げを実施しているとの声が聞かれた。具体的には、「好調な業績を踏まえ、継続的な賃上げを実施している」との声や、「生産性向上に向けた取り組みが奏功し、利益率が上昇していることからベースアップ（以下、ベア）や賞与増額を実施している」など、企業業績の改善や生産性の向上を積極的に還元している先がみられた。

また、人手不足が続くなかでは、人材の確保・係留のために賃上げが必要との指摘が聞かれた。具体的には、「人材

図表 1 労働需給



図表 2 賃上げの実施状況



(注) 図表2の企業規模は、資本金1億円以上が大企業、1億円未満(個人企業等を含む)が中小企業。  
 定昇・ペアの実施割合は、賃上げを実施した先に対する比率。  
 (出所) 総務省、厚生労働省、東京商工リサーチ「賃上げに関するアンケート(2018年度調査)」

の流出防止や新卒の確保のため、組合要求を上回るペアを実施」とか、「大型商業施設の進出による労働需給のタイト化を受けて、パート社員を係留すべく時給を引き上げた」といった声が聞かれた。

このほか、最低賃金の引き上

げをきっかけに非正規社員の賃上げを行うだけでなく正社員の賃金も引き上げたとの声や、政府の賃上げ促進策の存在を評価する声が聞かれた。

ただし、地方企業や中小企業を中心に、自社の先行き不透明感などから、所定内給与の引き

上げに慎重な先も相応に存在した。具体的には、業績対比で賃上げ幅を抑制する動きや、下方硬直性のあるペアを回避する動きがみられた。そうした先では、人口減少に伴う域内需要の先細り懸念やデジタル化など急速な技術革新に取

り残される不安などを慎重な理由として挙げている。

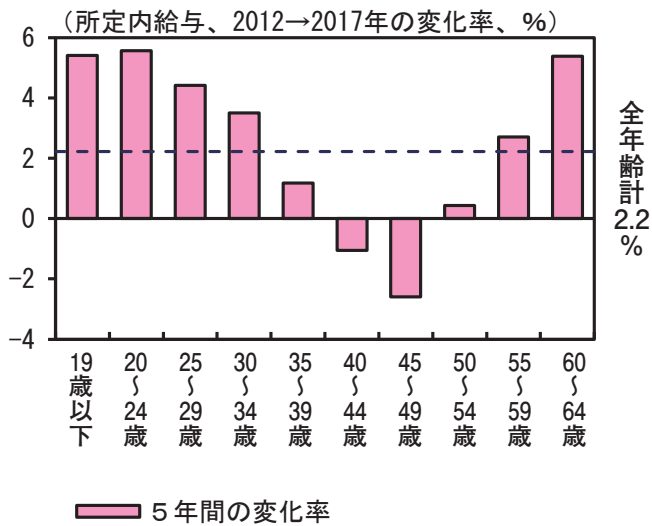
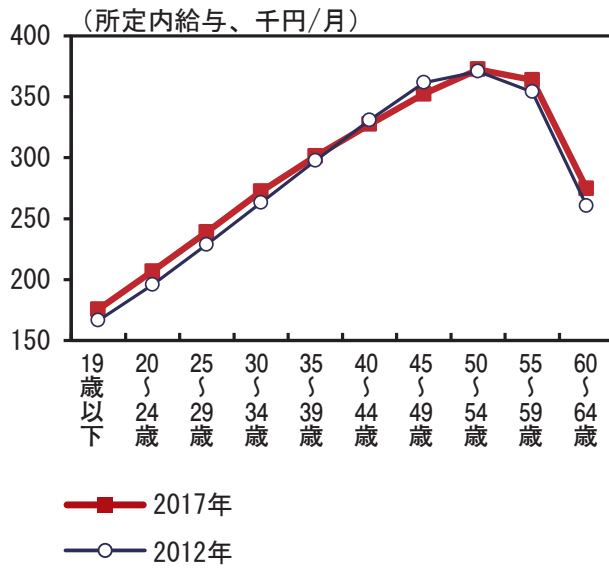
また、一部ではあるが、収益・財務基盤の弱い先は賃上げが十分にできておらず、いずれ人手不足により市場からの退出を余儀なくされるのではな

いかとの声も聞かれた。

このほか、最近ではワーク・ライフ・バランスの重視など就業意識が変化するなか、賃上げだけでなく、福利厚生や勤務環境の改善も人手不足への対応として有効との声が多く聞かれた。こうした声は、企業規模を問わず聞かれたが、特に地方企業や中小企業で強く意識されている。また、省力化投資や不採算事業の整理・縮小などにより、必要な労働投入量を削減し、賃上げ圧力を抑える動きも引き続きみられた。



図表3 一般労働者の年齢階層別賃金カーブの変化



(注) 民営事業所ベース。  
(出所) 厚生労働省

### 3. 新たな給与体系の構築に向けた取り組み

人手不足が続くもと、企業の間では、収益や生産性の改善分を従業員に効果的に配分・還元し得る給与体系を構築する動き

が広がりつつある。具体的には、年齢層ごと、あるいは個々のレベルで賃金の改善度合いにメリハリをつける動きがみられた。また、働き方改革の成果を従業員に還元することで、改革の動きを後押しする先もあった。

#### ① 年齢階層別賃金カーブの見直し

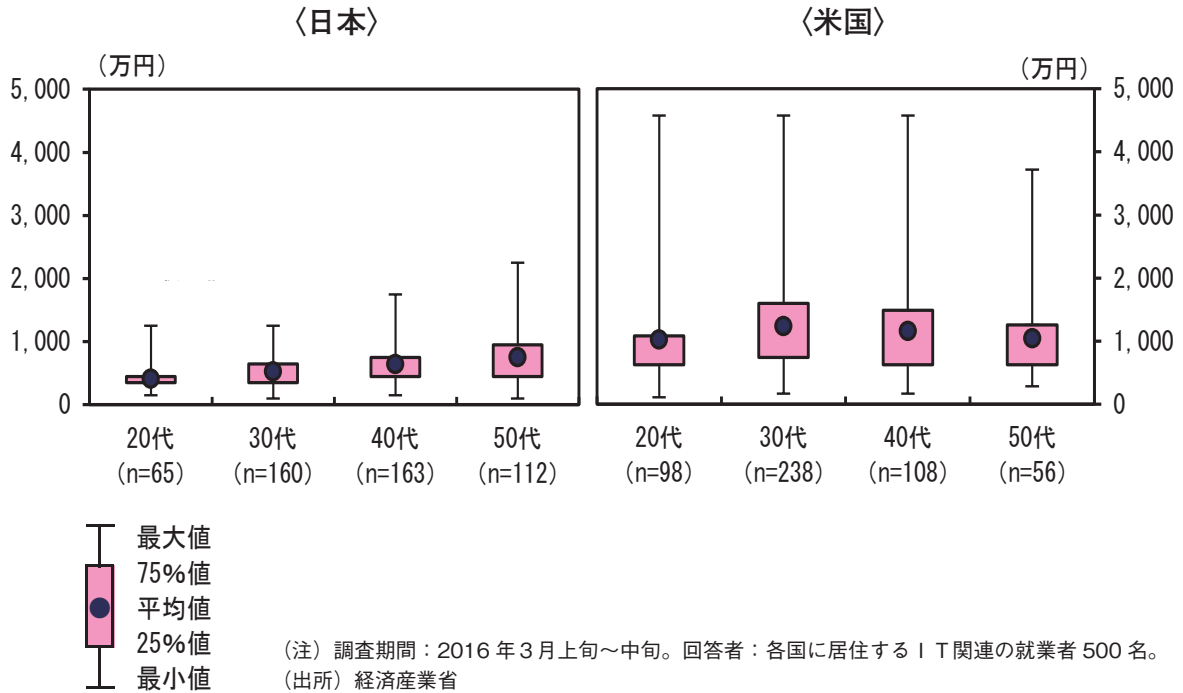
賃上げにあたって、従来の全層一律の対応や年功という考え方を改め、個々の企業が抱える課題や経営戦略に応じて、年齢

層ごとに賃金の改善幅に差を設けるメリハリ型の賃金見直しの動きが相応にみられた。

年齢層別にみると、若年層については、初任給の引き上げによる採用競争力の強化や、入社後の昇給・昇格の早期化によるモチベーションの向上を企図した動きが多い。高年層についても、人手不足のもとでの貴重な戦力として、定年の延長や再雇用時の給与減額措置の見直しを通じて、モチベーションの維持・向上を図ろうとする先が目立つ。一方、中年層については、抑制的な対応が一部にみられた。

こうした動きは、賃金カーブの最近五年間の変化——三〇歳代までの若年層と五〇歳以上の高年層が上昇している一方、四〇歳代の賃金は低下していること——とも整合的である(図表3)。

図表4 日米のIT人材の年収分布



② 能力や成果をより反映した給与体系の導入

基本給の決定要素は、年齢・勤続年数、職務遂行能力、職務や職種など仕事の内容、業績・成果などから構成される。このうち、職務遂行能力や業績・成果をより反映した給与体系への見直しについては、地方企業や中小企業を中心に、社内秩序・融和への影響や客観性のある評価制度構築の難しさなどから慎重な先が少なくない。

しかしながら、一部の先では、前述の年齢層ごとのメリハリ型の賃金見直しをさらに進め、従業員のモチベーション向上や採用競争力の強化を目的に、職能・成果要素の割合を拡大させる動きや、個々

の生産性に応じて柔軟に賃金を設定し得る給与体系に見直す動きがみられた。

③ IT人材の採用・処遇方法の工夫

近年、AIやIoT等の技術の急速な発展が進むもとで、IT人材の獲得競争が激化している。特に一部の大企業やスタートアップ企業では、IT人材の確保が先行きの競争力を左右する面も大きいため、採用スタンスを前傾化させている。ただし、採用にあたってはグローバル基準に近い高い賃金を意識せざるを得ない状況となっている(図表4)。

こうしたIT人材については、既存の評価・報酬体系のなかで処遇するのが困難との判断から、個々の賃金にメリ

ハリをつけるかたちで、本体とは別の組織で既存の従業員と異なる給与・人事体系を適用する（あるいは適用を検討する）先や、IT人材の給与水準をも許容できるように給与・人事体系を見直す先がみられた。

#### ④ 働き方改革を後押しする 給与体系の見直し

この間、政府が推進する働き方改革への対応の一環として、残業時間の削減に取り組む先が増えている。一部の先では、それにより減少した時間外手当を原資として、働き方改革を後押しするようなインセンティブを付与する動きがみられた。

### 4. おわりに

前節まででみてきたとおり、

自社の先行き不透明感などから所定内給与の引き上げに慎重な先もみられたものの、労働需給が着実な引き締まりを続けるなか、賃上げの動きは広範にみられた。また、新たな給与体系の構築については、従業員のモチベーションの向上や採用競争力の強化を企図して、収益や生産性の改善分を従業員に効果的に配分・還元しようとする動きがみられた。

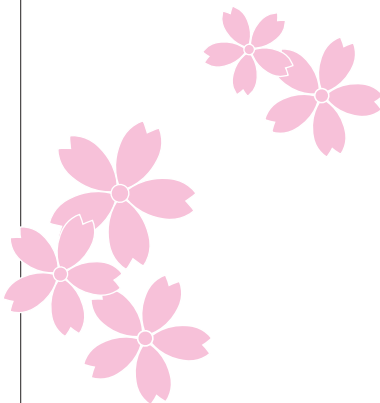
先行きの賃金動向を展望すると、労働需給の引き締まりが続けば、賃金上昇圧力が一段と高まるため、賃上げの動きがさらに広がり、企業の賃金設定スタンスも徐々に積極化していくとみられる。もともと、地方企業や中小企業を中心とした自社の先行き不透明感は、人口減少に伴う域内需要の先細りや急速な技術革新に取り残される不安な

どを強く意識した面もあるため、こうした企業行動の変化には時間を要する可能性もある。この間、長い目でみると、福利厚生や勤務環境の改善による人材の確保・係留やモチベーションの向上、省力化投資等の取り組みが奏功するかたちで労働生産性が向上し、賃上げの原資が生み出されることが期待される。そうなれば、先行きの賃上げテンポが加速する素地が整うことになる。

新たな給与体系の構築については、今後、労働需給の引き締まりが続けば、人材を効果的に確保・係留していく必要性は一段と高まっていくことから、緩やかながらも広がっていくと考えられる。

先行きの物価動向をうかがううえで、今後、企業の賃金設定スタンスが積極化し、賃金の

上昇テンポが加速するのどの程度時間を要するかが、重要なポイントのひとつである。また、新たな給与体系の構築に向けた取り組みが広がり、従業員のモチベーションの向上等を通じて労働生産性の向上につながるか、そして、労働生産性の向上分が賃金により鮮明に反映されるようになるか——企業の好業績が労働者に還元される度合いが強まるか——、といった点も鍵となる。引き続き企業の賃金設定スタンスや給与体系の変化に注目していく必要がある。



## 長崎支店は 開設七〇周年を迎えました

▼長崎支店は、三月一日に開設七〇周年を迎えました。昭和二十年（一九四五）四月に事務所として設立されたのち、昭和二十四年（一九四九）三月一日に九州地区で最後となる六番目の支店として開設されました。

▼支店が開設された頃の長崎市内は、原爆の痛手がいたるところに残っている状況でした。そ



「魅力の宝庫」である長崎の観光資源を、ちやんぼんの具材に見立てた銀行券裁断片オブジェ

中村長崎県知事（写真左）と平家支店長の対談の様様



のような中で旧長崎市立博物館を増改築した木造の営業所は、「白亜の殿堂」と呼ばれていたそうです。

▼七〇周年を迎えるに当たり、支店広報のシンボルとすべく、県内の観光資源を模した銀行券裁断片のオブジェや、見学記念スタンプ等を新たに製作しました。さらに、周年行事の一環として中村法道長崎県知事に「ご来店いただき、平家達史長崎支

店長との対談を行ったほか、産業・金融界の関係者を招いて店内見学会を開催しました。

▼また、長崎支店のホームページに開設七〇周年を記念した特設ページを設けました。その中にはバーチャル店内見学コーナーを新設したほか、前述の各種行事の模様や周年記念特別レポート等を掲載しています。



▼長崎支店は、これからも地域とともに歩み、長崎県の一層の発展に貢献してまいります。

## 第七回FinTech フォーラムを開催

▼近年、キャッシュレス決済への注目が高まっています。ICチップを埋め込んだプラスチックカードやスマートフォンアプリなどを使った決済サービスが数多く提供されています。こう

したなか、決済機構局FinTechセンターでは、二〇一八年十一月三十日、第七回FinTechフォーラム「どうなるキャッシュレス決済手段…対面決済の未来」を開催しました。

▼開会挨拶において池田唯一理事は、便利で安全な決済サービスの普及や新しい金融サービスの登場は、日本経済の成長に



会場の様子

（撮影：野瀬勝一）



パネルディスカッションの様子

(撮影：野瀬勝一)

貢献することを指摘しました。これらは、決済の利便性向上やコスト削減にとどまらず、データマーケティングに活用したり、決済以外のサービスと連動させることで、新たなサービスや付加価値を生み出していくことができます。一方で、国民生活の重要なインフラであるリテール決済は、いつでも安心して使えるサービスであること、セキュリティ面で適切な対応

が取られることが重要であることにも触れました。また、新たな金融・決済サービスの普及に向けて、イノベーションを促すための競争的な環境を維持しながら、適切に協調して市場拡大を促進するような取り組みも論点となることを指摘しました。

▼フォーラムでは、キャッシュレス決済事業者から、ユーザーの利便性向上と加盟店に対する付加価値提供を両立することの重要性や、決済以外の事業との相乗効果への期待が指摘されました。たとえば、顧客への対応については、使い勝手の良いアプリケーションの提供や、加盟店の拡大を通じた利便性の確保などを通じて、キャッシュレス決済のメリット向上を図る工夫が紹介されました。加盟店に対しては、新たな決済ツールの導入を支援することで、キャッシュレス決済ニーズを持つ消費者やインバウンド客の取り込みを促す戦略や、決済データを活

用したマーケティングサービスを加盟店に還元する取り組みなどが有効との指摘が聞かれました。パネルディスカッションでは、ユーザーや加盟店を開拓する上での課題・工夫や、インターフェースや資金決済手段の選択、コスト構造と決済手数料に対する考え方、競争が決済手数料に及ぼす影響、決済データ活用の難しさや留意点など、幅広い議論が行われました。

▼FinTechフォーラムの議事概要およびプレゼンテーション資料は、日銀ホームページの「決済・市場」↓「FinTechセンター」↓「FinTechフォーラム」のコーナーをご覧ください。プレゼンテーションやパネルディスカッションの様様をYouTubeで視聴することもできます。



## 「第一四回日銀グランプリ」キャンペーンからの提言」の決勝大会を開催

二〇一八年十一月二十三日(祝)

▼大学生を主な対象とする金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第一四回日銀グランプリ」キャンペーンからの提言」が今年も開催されました。今回は全国各地の五二大学から一四七編の論文が寄せられ、一次審査を通過した五チームによる決勝大会が日本銀行本店で行われました。

▼決勝大会では、佐藤義雄氏(経済同友会副代表幹事、住友生命保険相互会社取締役会長 代表執行役)、橘・フクシマ・咲江氏 (G&S Global Advisors Inc. 代表取締役社長) の他、若田部昌澄日銀副総裁(審査員長)、鈴木人司・片岡剛士両政策委員会審議委員の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行い

## 編集後記

■今年も桜の季節がやってきました。皆さまは、桜の花にどのようなイメージをお持ちでしょうか。季節柄、卒業や入学・入社、出会いや別れといった場面を想像する方も多いのではないかと思います。私の場合、少々違うのかもしれませんが、満開の桜の花や桜並木を見るたびに、何十年、何百年と同じように繰り返される不変の美にしばし酔いしれます。時代とともに人類は進歩し、社会は発展してきました。桜などの植物も、環境に適応するために少しずつ進化してきているはずですが、でも、思いやりや美しさなど、ずっと変わらない方がよいこともあります。今回本誌で紹介したインタビューや対談、奈良県桜井市の取材でも、時代に応じた変化や発展を追求しつつ、根底には変わらない素晴らしさも訴えている気がします。デジタル化の進展など、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。多忙な暮らしの中で、ちょっと立ち止まろう、振り返ろう、この季節の桜がレトロなメッセージを私に伝えてくれます。(中川)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([http://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2019年春号  
編集・発行人 中川 忍  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1  
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載



決勝進出5チームと審査員の皆さん

(撮影：野瀬勝一)

ました。  
▼最優秀賞には、東京経済大学経済学部・経営学部チームの「所得控除連動型消費税免税マイナス金利デビットカード(免税カード)のすすめ」が選ばれました。この他、優秀賞に函館大学商学部チーム・麗澤大学経

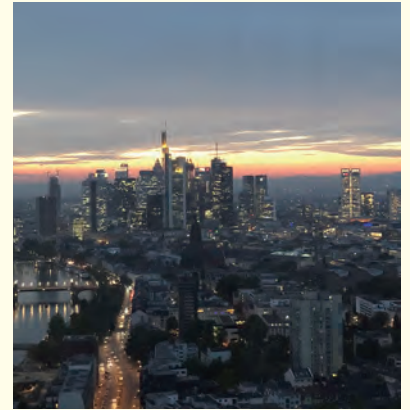
済学部チーム、敢闘賞に東京大学経済学部チーム・日本大学経済学部チームが選出されました。  
▼審査員からは、「統計データに加え、実務家への聞き取り調査やアンケート等を通じて、自身の抱いた問題を解決しており、具体的に実現可能性を感じさせるものだった」との総評がありました。

日銀ホームページに専用コーナーを設け、決勝参加チームの作品全文と審査員講評および奨励論文の要旨を紹介しています。また、同コーナーやYouTubeでは決勝大会の様相を収録した動画も配信しています。





from Frankfurt



フランクフルトの高層ビル群

## 変化と伝統のフランクフルト

ドイツには中規模の都市が点在しているという特徴があります。統計のとり方にもよりますが、もっとも大きな都市はベルリンで人口約360万人、続くハンブルクが約180万人、以下ミュンヘン、ケルンとなりますが、その差はさほど大きくありません。ちなみに欧州中央銀行があるフランクフルトは、5位の約75万人です。ドイツの総人口はおよそ8,200万人ですから、最大都市のベルリンといえども全体のわずか4%で、人口の約3分の1が東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)に集中する日本との違いに驚かされます。また各都市が歴史、文化、経済等できわめてユニークな特色を持っていることもドイツの大きな魅力です。

文豪ゲーテ(注1)が生まれ音楽家テレマン(注2)が活躍したフランクフルトは、古くから金融の街として知られてきました。1998年にこの地で共通通

貨ユーロとユーロ圏の金融政策運営を任務として設立された欧州中央銀行は、その後の金融危機を機に役割が一段と拡大され、2014年にはユーロ圏の銀行監督を一元的に担う機能も加えられました。2016年の英国のEU離脱決定を受けて金融機関のロンドンからのシフトが広がるなか、フランクフルトはまさに欧州金融の中心地として更なる変貌を遂げようとしています。

そのフランクフルトでは今、新「旧市街」と呼ばれるエリアがちょっとした話題となっています。第二次世界大戦で大きな被害を受けた旧市街の一面を戦前の姿に復元しようとする試みが、2018年に完了しました。観光名所となっているレーマー広場から聖バルトロメウス大聖堂までのおよそ7,000㎡のエリアで、戦前の木組みの建物や細く入り組んだ小道、噴水などが忠実に再現されたのです。時を経て再びよみがえった旧市街は、これからまた新たな歴史を刻んでいくことでしょう。

(欧州中央銀行、フランクフルト)



左/欧州中央銀行本部ビル。このほか市内に2つの拠点があります。右/レーマー広場のクリスマスマーケット

注1 ゲーテ(1749-1832): 詩人、小説家、劇作家。小説『若きウェルテルの悩み』など数々の名作を生み、名声を博した。  
注2 テレマン(1681-1767): 後期バロック音楽を代表する作曲家で、当時ドイツ随一の人気を誇った。

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



にちぎん